

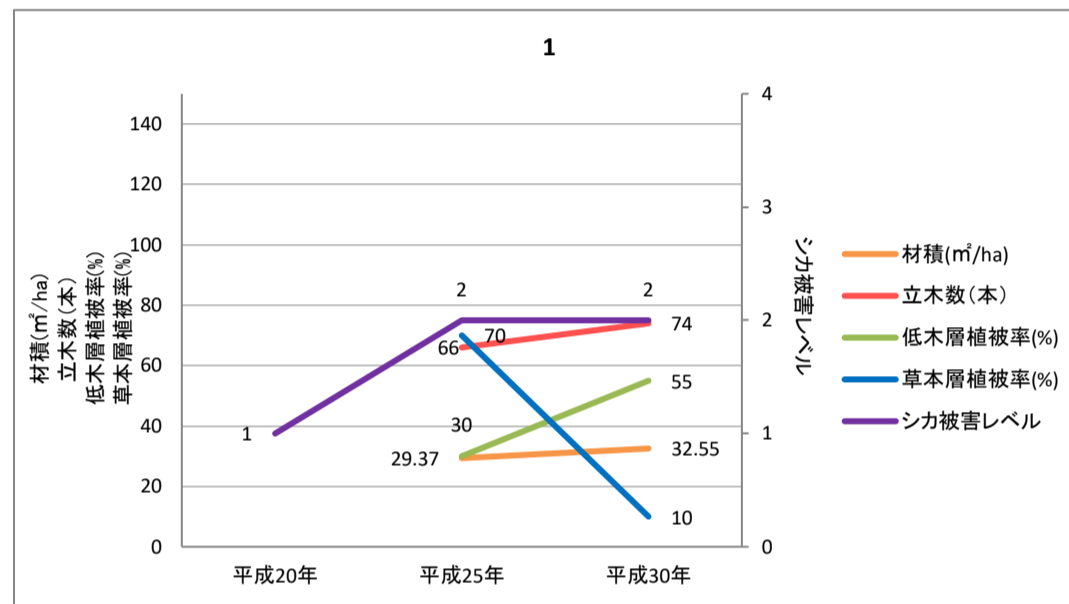
平成30年度保護林モニタリング調査結果 (図表)

No.	対象保護林名	頁番号
①	祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域	1
②	男女群島生物群集保護林	(*)記載なし
③	豆酩龍良山スタジイ等遺伝資源希少個体群保護林	8
④	豆酩内院龍良山神崎スタジイ等希少個体群保護林	9
⑤	対馬白嶽アカガシ等希少個体群保護林	10
⑥	英彦山スギ等遺伝資源希少個体群保護林	11
⑦	犬ヶ岳ブナ等遺伝資源希少個体群保護林	(*)記載なし
⑧	柏山アカマツ遺伝資源希少個体群保護林	12
⑨	白髪岳生物群集保護林	13
⑩	釈迦院スギ希少個体群保護林	14
⑪	崩川内モミ等希少個体群保護林	15
⑫	掃部岳生物群集保護林	16
⑬	国見山コウヤマキ等希少個体群保護林	17
⑭	重永カヤ等遺伝資源希少個体群保護林	18

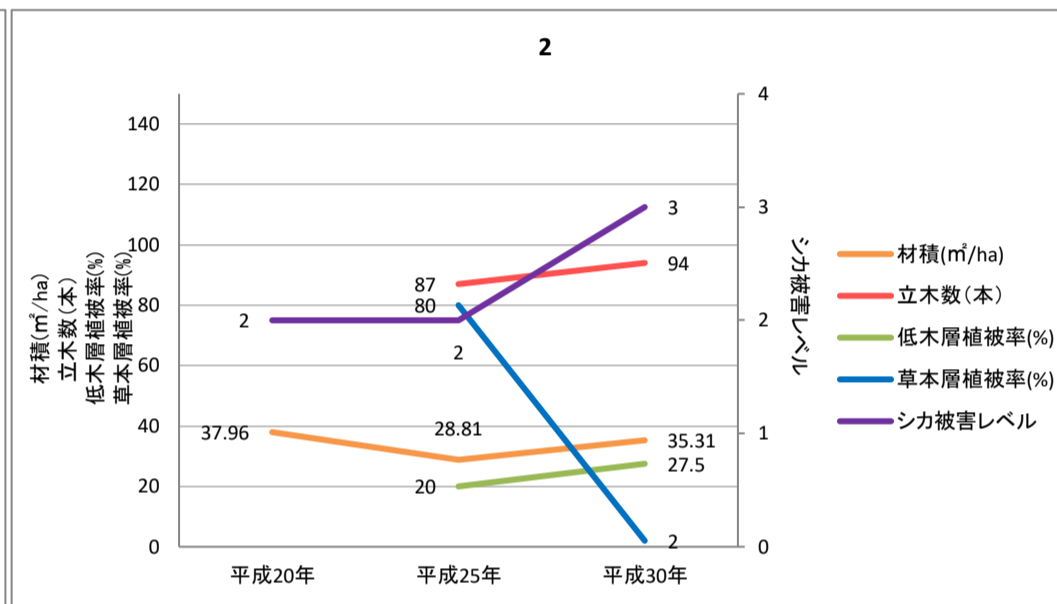
(*)平成30年度は森林概況調査により下層植生調査を実施していないため記載なし

①祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域(1)

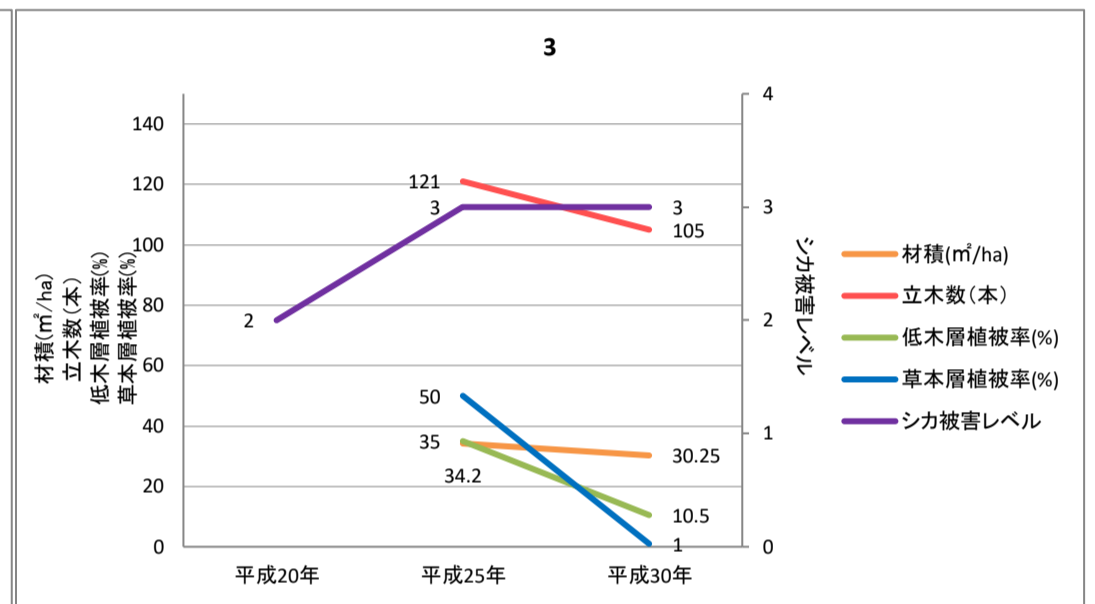
プロットNo.	1			2			3			4			5			6		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)		29.37	32.55	37.96	28.81	35.31		34.2	30.25	34.92	32.59	31.8	23.28	29.91	25.16	35.94	46.15	44.97
立木数(本)		66	74		87	94		121	105		63	60		34	28		84	82
低木層植被率(%)		30	55		20	27.5		35	10.5		20	15		30	20		20	25
草本層植被率(%)		70	10		80	2		50	1		3	1.5		50	45		80	65
シカ被害レベル	1	2	2	2	2	3	2	3	3	2	3	3	2	3	4	1	2	1
低木層種数		1	3		2	3		7	1		2	1		3	2		2	4
草本層種数		3	18		1	15		4	10		5	12		4	15		6	10
低木層優占種			スズタケ			スズタケ			タンナサワフタギ			タンナサワフタギ			ブナ			アセビ
草本層優占種			スズタケ			スズタケ			ミス タチツボスミレ			ヒメアシボソ			スズタケ			スズタケ



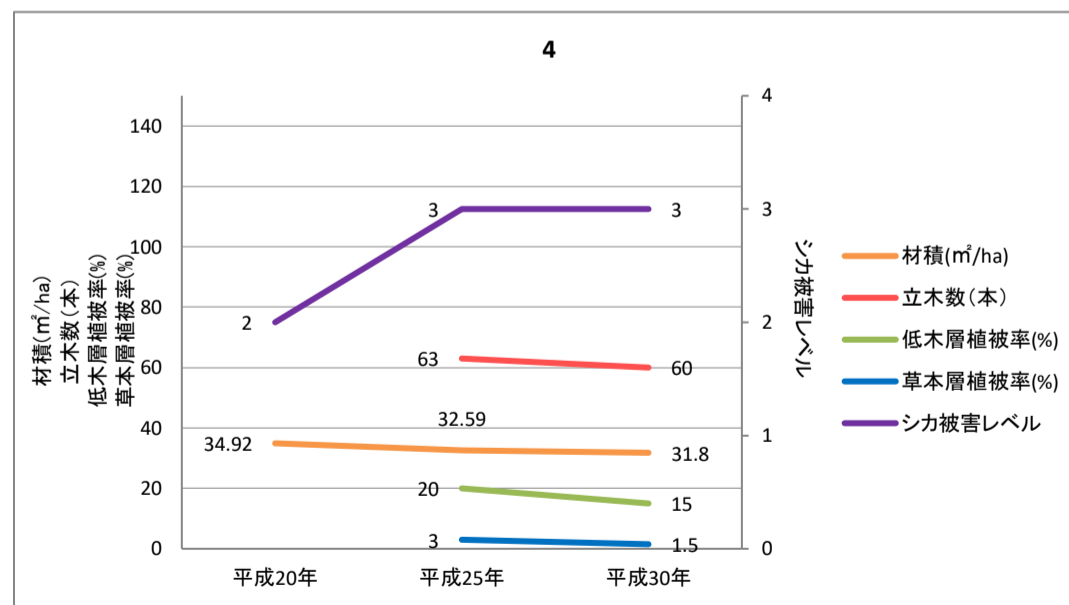
高木層の枯損はブナの大径木1本で、他は健全である。低木層はスズタケが密生しており、登山道沿いは背丈が高いため林内の見通しは悪い。しかし、少し林内に入るとシカの採食で矮小化している。草本層はスズタケ以外はあまり目立たず、植被率も低い。



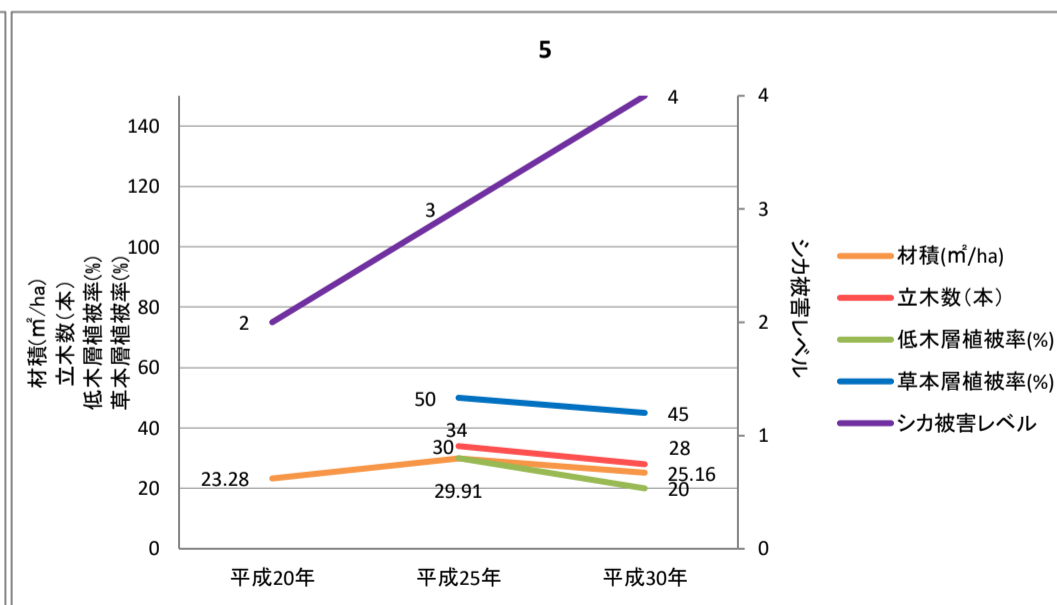
高木層はブナの大径木1本が枯損している他、胸高直径20cmほどの立木の枯損もあり、やや健全性を欠きつつある。小径木のナナカマドやアオダモの枯損が目立つ。低木層はスズタケが生育しており林内の見通しはやや悪いが、スズタケは開花により枯死しつつあり、過年度より林内の見通しがかなり良くなっている。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



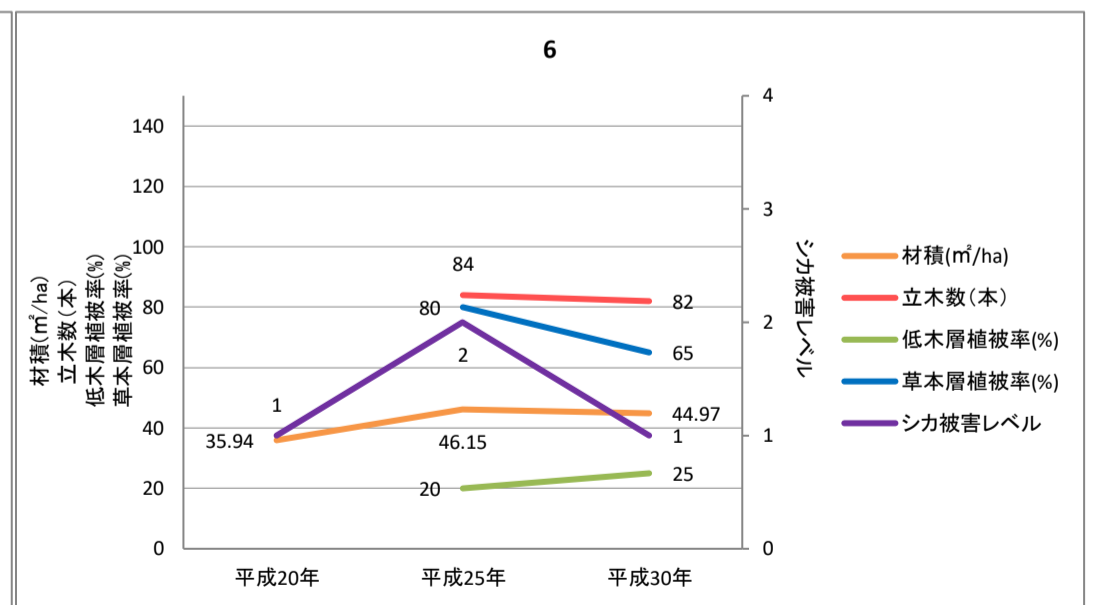
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。しかし、低木はタンナサワフタギが生育する程度で林内の見通しはよい。また、草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。なお、スズタケは過年度から生育が確認されていない。



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。しかし、低木はタンナサワフタギが生育する程度で林内の見通しはよい。また、草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。スズタケが僅かに確認されたものの全域的に開花枯死しており、枯死稈が残る程度である。



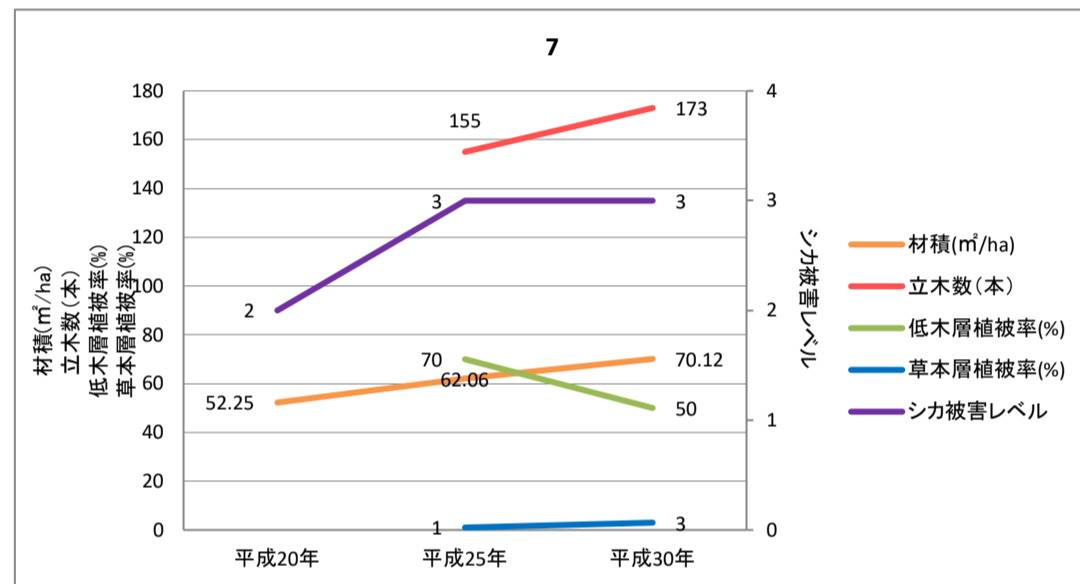
大径木のブナの枯損が確認された他、ナナカマドやコハウチワカエデの枯損が確認された。低木層はブナが確認されるものの林内見通しはよい。また草本層にスズタケが確認されるが、シカの採食のためか矮小化している。他にシカの忌避植物であるバイケイソウが確認された。



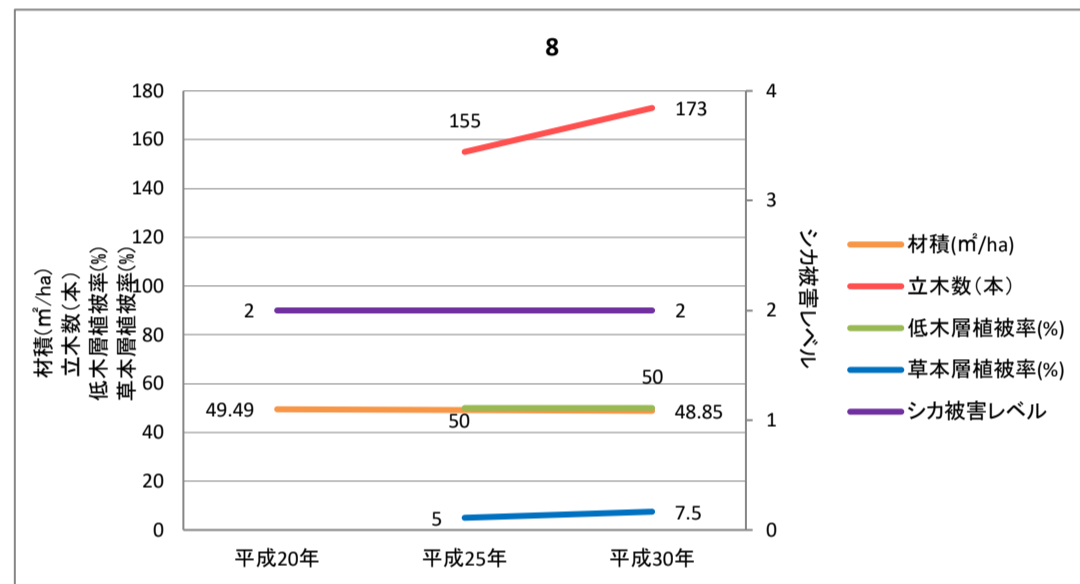
新たに大径木のブナが1本枯れていたが、他に高木層構成種の枯損はなく、健全である。低木層以下はスズタケが繁茂しており、林内の見通しは悪い。しかし、スズタケは開花していることから今後枯死するものと思われる。

①祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域(2)

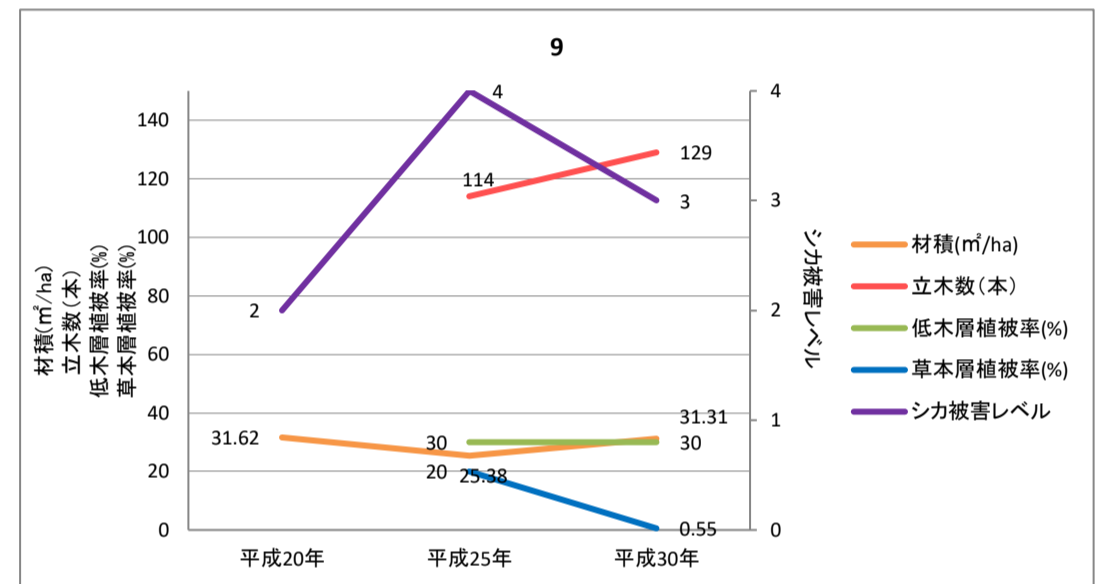
プロットNo.	7			8			9			10			11			12			
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	
材積(m ³ /ha)	52.25	62.06	70.12	49.49	#N/A	48.85	31.62	25.38	31.31	36.16	27.6	29.08	48.48	11.98	17.48	51.34	17.09	20.21	
立木数(本)		155	173		155	173		114	129		37	38		10	13		40	46	
低木層植被率(%)		70	50		50	50		30	30		0	7.5		40	7.5		0	30	
草本層植被率(%)		1	3		5	7.5		20	0.55		1	45		20	1.5		1	3	
シカ被害レベル	2	3	3	2	#N/A	2	2	4	3	2	4	4	2	2	4	2	2	4	
低木層種数		6	7		7	10		3	3		0	1		1	1		0	4	
草本層種数		2	18		3	6		2	15		4	12		13	14		2	11	
低木層優占種			ツクシアケボ ツツジ ツクシコバノミ ツバツツジ			コハウチワカエ デ シラキ			シロモジ			タンナサワフ タギ			アセビ				ヒサカキ
草本層優占種			ハイノキ ソヨゴ			シコクマコ ナ			アセビ			アシボン			アセビ				ハイノキ アセビ



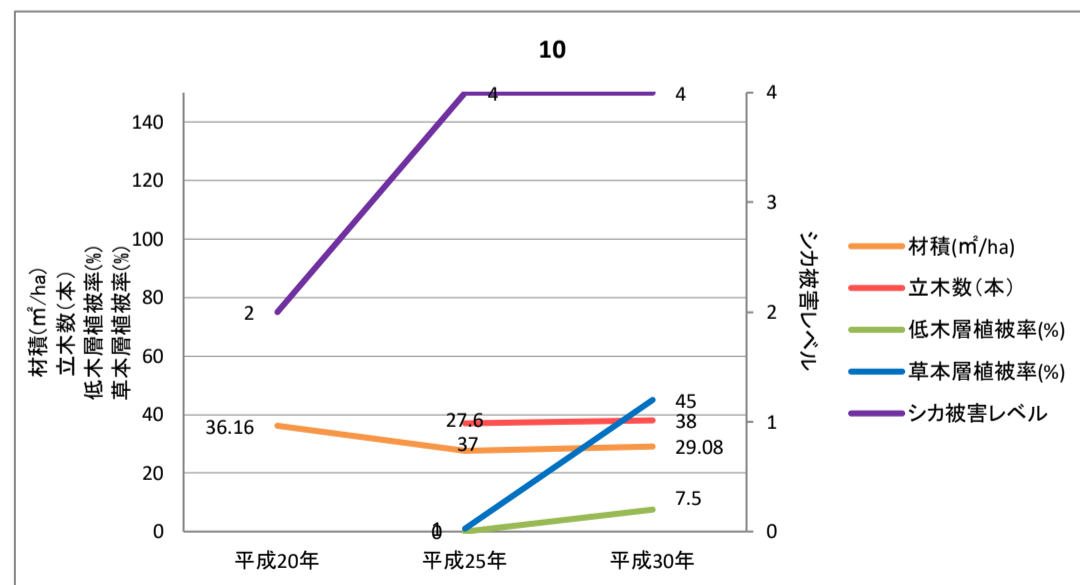
ヒノキの天然林で、高木層を形成するヒノキ大径木などの枯損はない。小径の低木(ミツバツツジ類)は多いが、林内は見通しが良い。また、草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。スズタケは未確認。



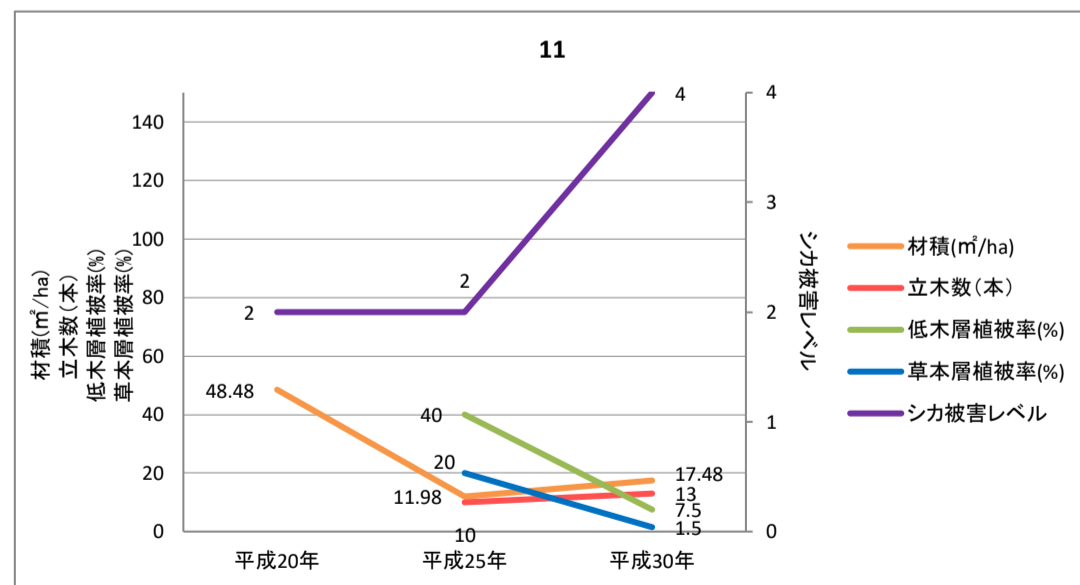
ヒノキの天然林で、高木層を形成するヒノキ大径木などの枯損はほとんどない。低木層は植被率10%以下で、林内の見通しはよい。草本層はシカの忌避植物であるシコクマコナがマット状に生育している。



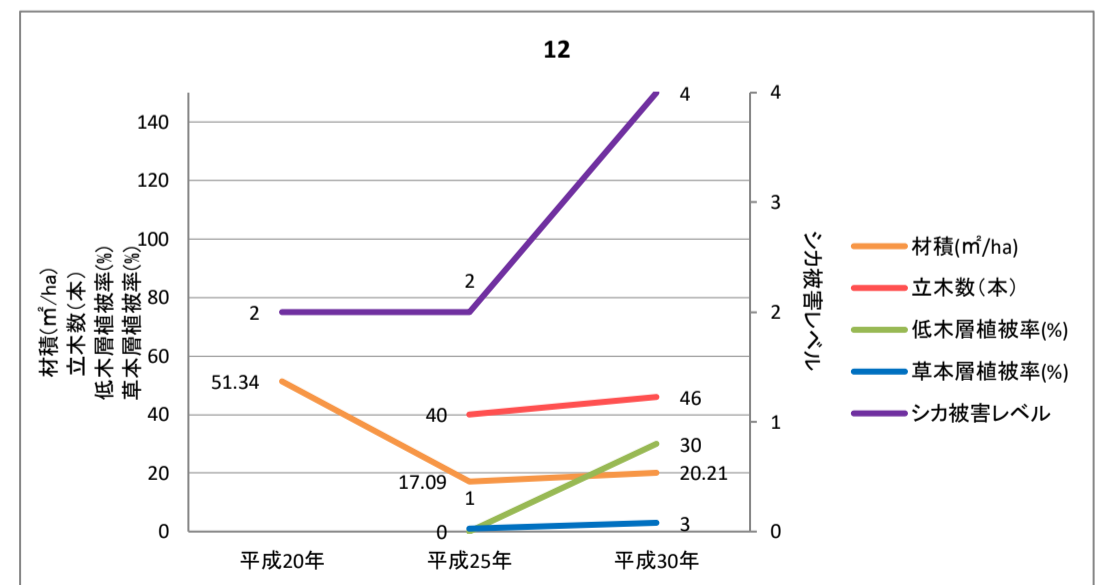
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。小径木のコハウチワカエとアオダモが優占しており、シロモジも確認された。しかし、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



大径木の枯損はないが、コハウチワカエ2本が寝返り倒伏していた。低木層は植被率が低く、林内の見通しは非常によい。また、草本層は貧弱で、露岩が多い。一部、シカの忌避植物であるアシボンが覆っている。なお、過年度から既に高木の倒伏木が多く確認され、表土流亡も僅かに確認される。



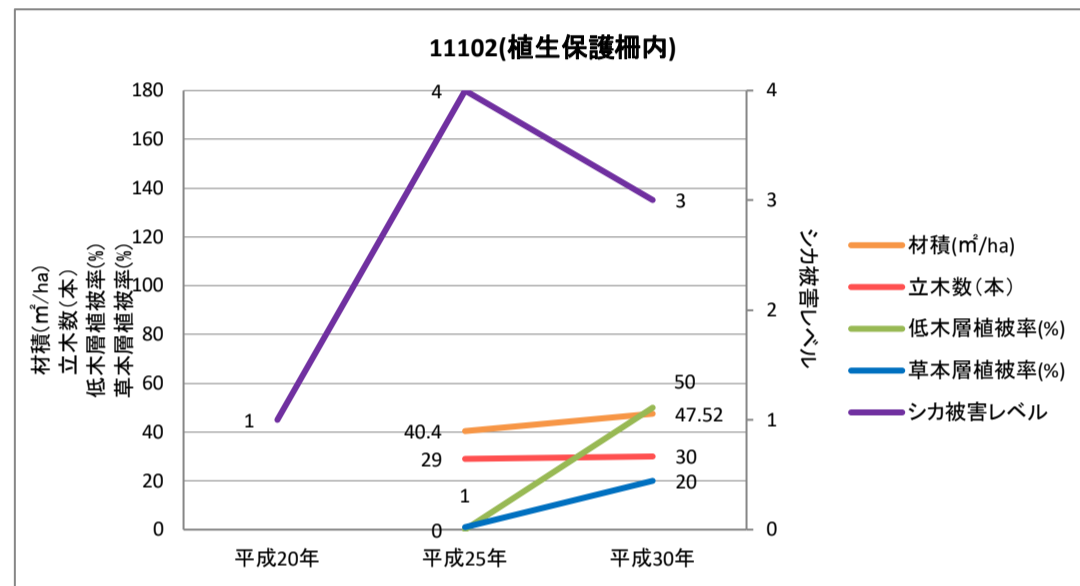
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。低木層はシカの忌避植物であるアセビが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。調査プロットの小円部と中円部は谷部の崩壊地に位置し、表土流亡が起こっている。大円部でも崩壊が進んでおり、今後、大円部の立木が崩壊のため倒伏する可能性もある。



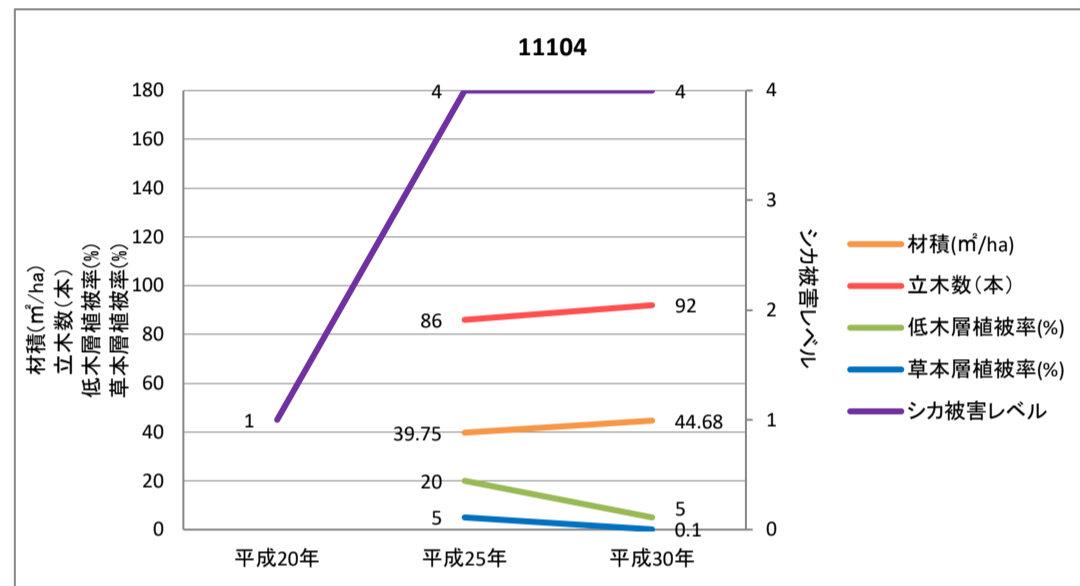
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。低木層はヒサカキが優占し、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。小円部は表土流亡が激しく、立木は全くない。小円部のほぼ全域と、中円及び大円の一部は崩壊地に位置しており、砂質の土壌のため随時、表土流亡が起こっている状況である。

①祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域(3)

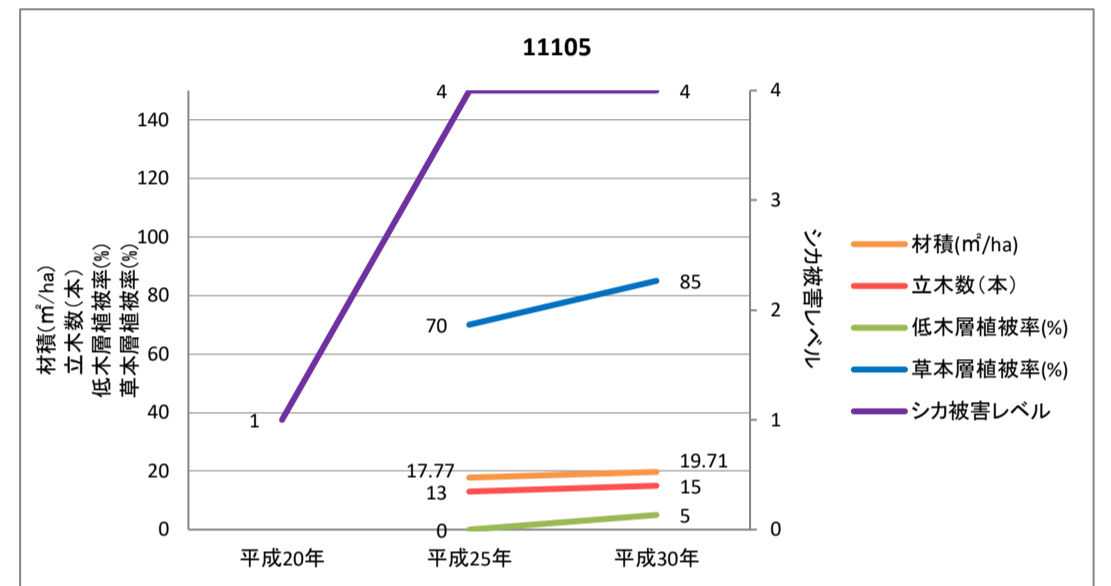
プロットNo.	11102(植生保護柵内)			11104			11105			11113			11114			11115		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)		40.4	47.52		39.75	44.68		17.77	19.71	75.83	80.89	77.85	37.48	38.91	34.4	16.9	33.28	41.67
立木数(本)		29	30		86	92		13	15		72	77		61	60		182	227
低木層植被率(%)		0	50		20	5		0	5		80	75		30	45		50	50
草本層植被率(%)		1	20		5	0.1		70	85		5	0.1		80	40		80	0.55
シカ被害レベル	1	4	3	1	4	4	1	4	4	1	3	3	1	2	4	1	2	2
低木層種数		0	14		3	1		0	1		4	5		6	2		6	7
草本層種数		5	17		2	11		11	16		9	6		10	18		6	3
低木層優占種			リョウブ			ツクシコバノミ ツバツツジ			リョウブ			ハイノキ			ツクシアケボノ ツツジ			アセビ
草本層優占種			ヒメシャラ			なし			アシボソ			なし			スズタケ			スズタケ



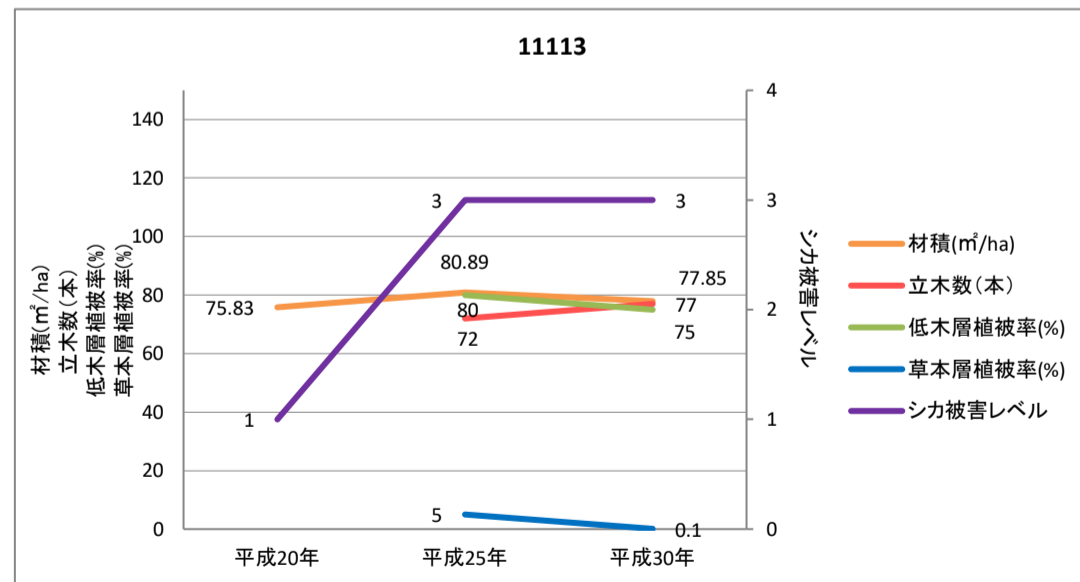
大径木のナナカマドの枯損及び倒伏が2本あるが、それ以外の高木層は健全である。当プロットはほぼ全域が植生保護柵内に位置し、草本層及び低木層の植生は回復傾向にある。低木層はリョウブとヒメシャラが繁茂し、林内の見通しは悪い。草本層はやや貧弱であるが、ブナの稚樹が確認されるなど、天然更新ができつつあると思われる。



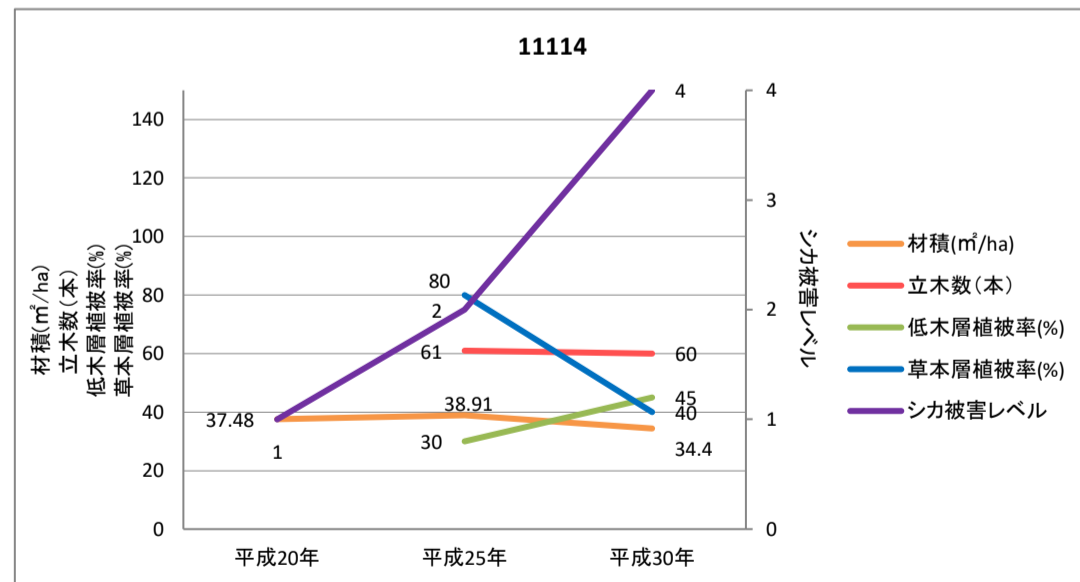
コシアブラ他、胸高直径18cm以上の大径木の枯損が3本確認された。低木層は、ツクシコバノミツバツツジが確認される他、コハウチワカエダが目立つが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



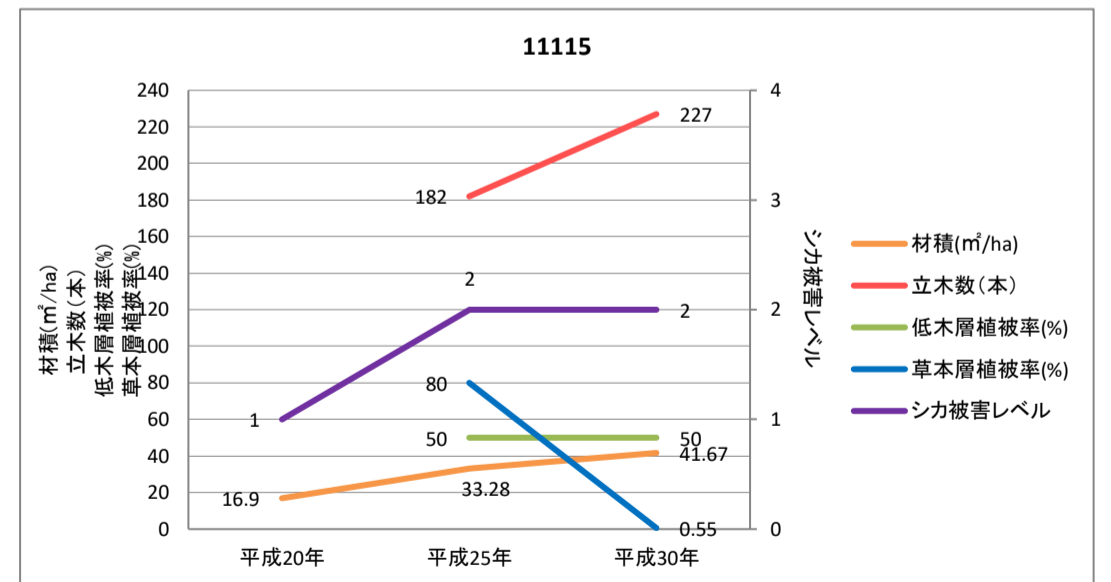
大径木のナツツバキ他、枯損及び倒伏が2本あり、プロット周辺では大径木の倒伏や立ち枯れが目立つ。先枯れや枯死寸前のブナも確認された。低木層はわずかにリョウブが確認される程度で、林内の見通しは非常によい。草本層はアシボソが高い被度で覆っており、草原化している。



H25年報告書に防鹿柵が設置されていると記載があるが、防鹿柵は確認されなかった。大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。低木層はアセビやハイノキが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



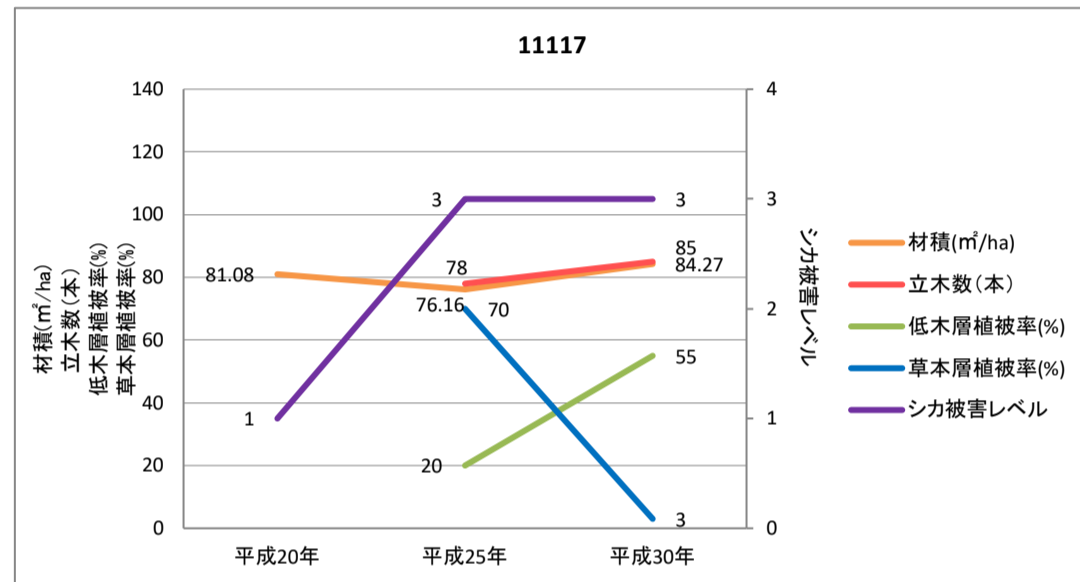
高木層は大径木のブナの枯損が2本確認された他、樹種不明の立木1本の枯損が確認された。低木層はスズタケやツクシアケボノツツジが優占しており、1m以下の見通しは悪い。草本層はスズタケが優占し植被率も高いが、シカの採食により矮小化している。



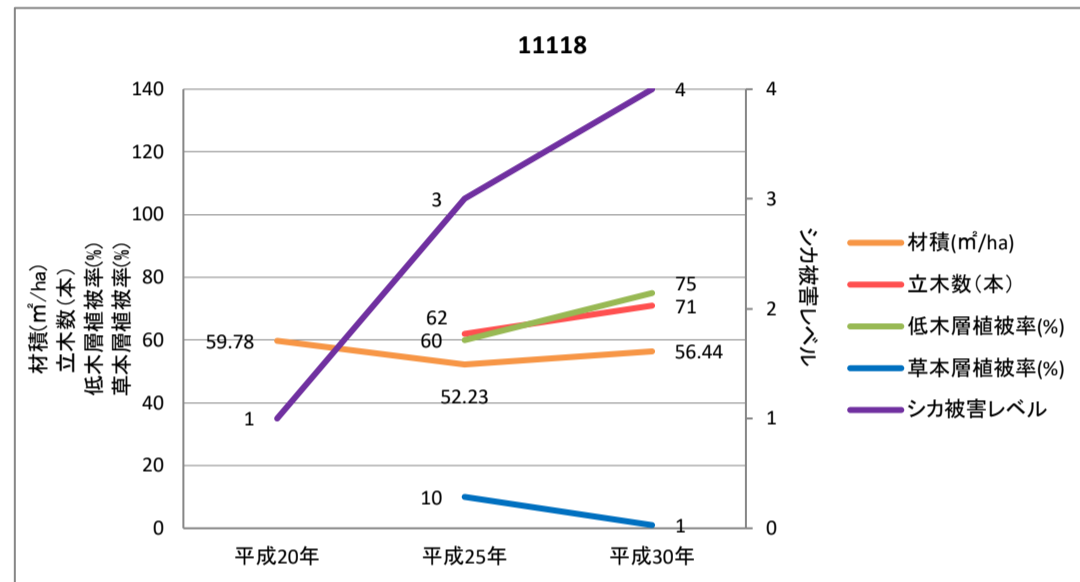
高木及び大径木はほとんどなく、低木のアセビが目立つ。低木層はスズタケが優占し林内の見通しは悪いが、枯死稈が目立つ。草本層はわずかにシカの採食を受けてお、植被率が極めて低く、貧弱である。

①祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域(4)

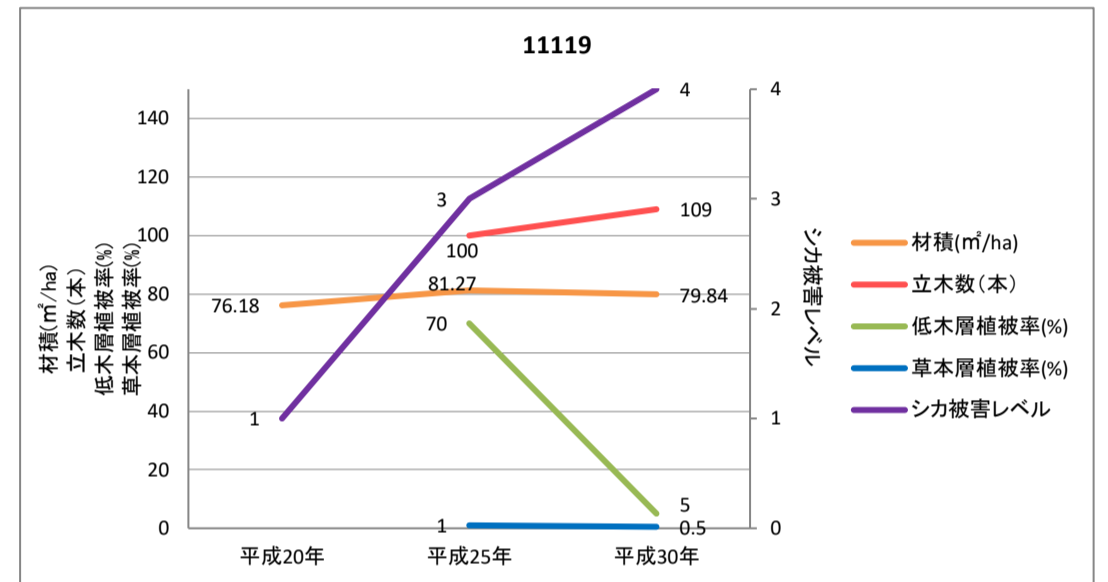
プロットNo.	11117			11118			11119			11120			11121			11123		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	81.08	76.16	84.27	59.78	52.23	56.44	76.18	81.27	79.84	36.17	78.76	42.65	52.14	40.14	42.42	53.14	58.07	68.85
立木数(本)		78	85		62	71		100	109		53	57		47	55		132	150
低木層植被率(%)		20	55		60	75		70	5		30	12.5		50	0.5		50	5
草本層植被率(%)		70	3		10	1		1	0.5		5	0.1		60	2		10	10.5
シカ被害レベル	1	3	3	1	3	4	1	3	4	1	3	4	2	3	4	3	3	4
低木層種数		4	4		3	7		9	3		4	3		4	1		9	1
草本層種数		9	13		6	8		16	7		7	10		6	9		2	4
低木層優占種			ハイノキ			ハイノキ			ハイノキ			ハイノキ			なし			アセビ
草本層優占種			ハイノキ			ハイノキ			ハイノキ			なし			なし			アセビ



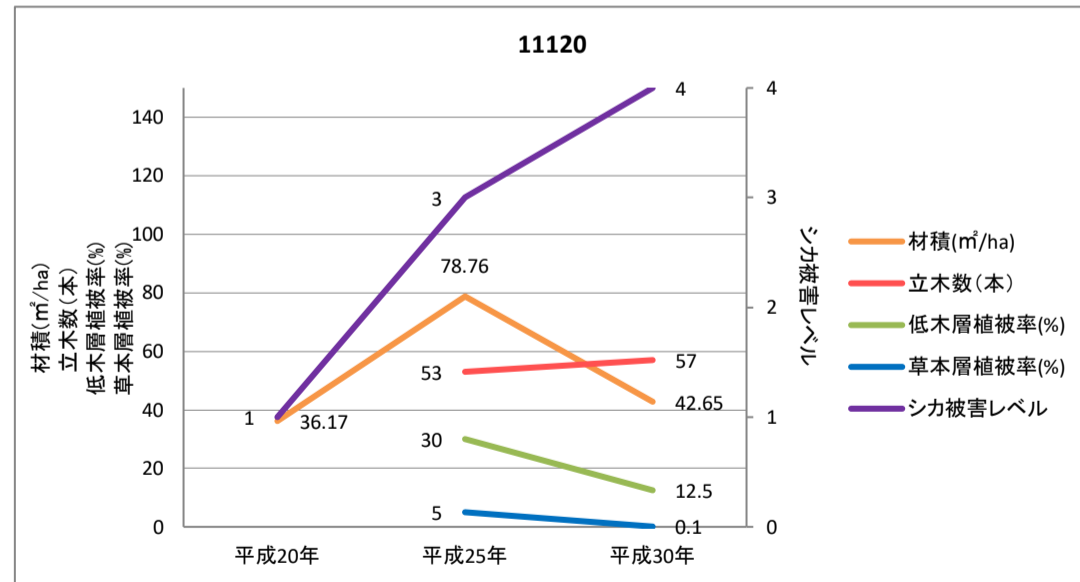
高木層は、ミズナラの大径木の他にツガ1本の枯損が確認されたが、その他は健全である。低木層はスズタケが生育し林内の見通しは悪いが、開花枯死しており枯死稈が目立つ。以前はスズタケが群落を形成していたものと思われる。草本層は貧弱で、ハイノキが優占した。



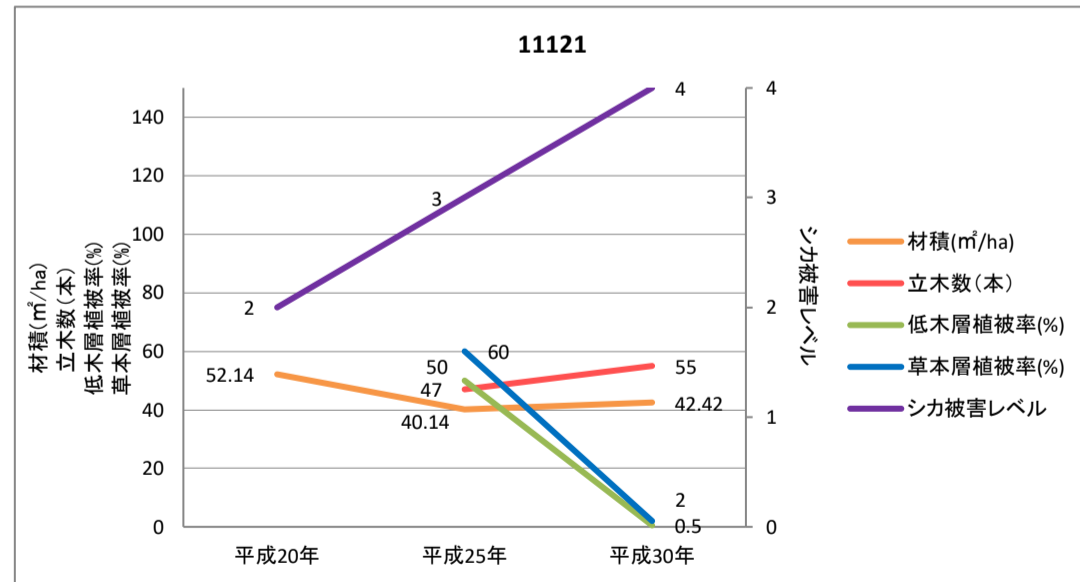
高木層は、ツガの大径木など4本の枯損が確認された。低木層はハイノキが優占し、林内の見通しはやや悪くなっているが、シカの忌避植物への偏りが大きい草本層は植被率が極めて低く貧弱で、ハイノキが目立つ。



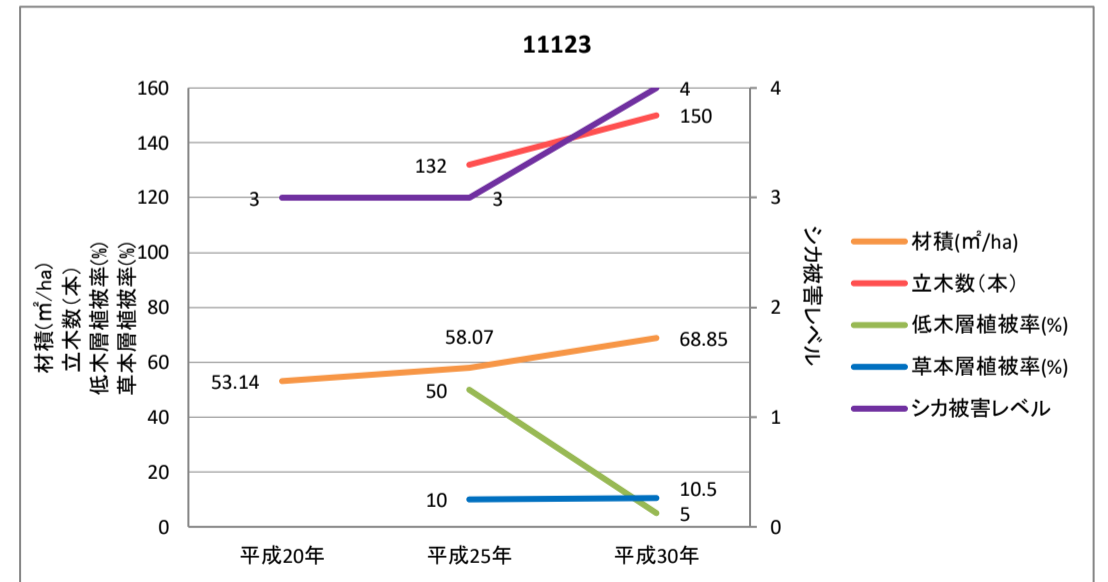
高木層は、ツガの大径木など5本の枯損が確認された。低木層はハイノキやネジキが目立ち、やや見通しは悪い。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



崖地で露岩が多く、地中に空洞が生じているため巨石が転がりかけている。斜面崩壊が進行しており、根が浮いている立木が目立つ。大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は現時点では健全である。低木層はシカの忌避植物であるハイノキが目立つが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



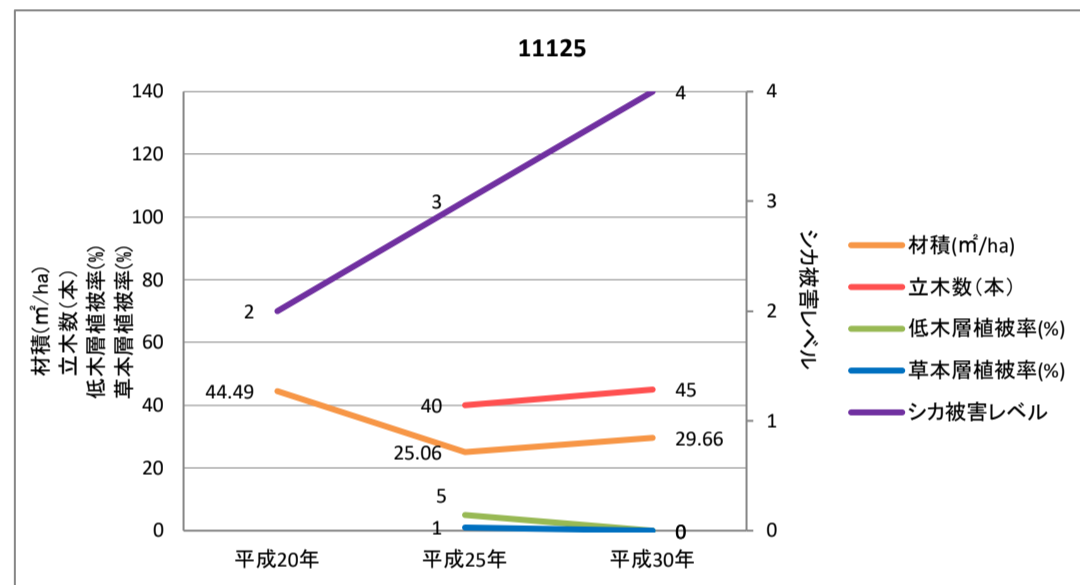
高木層は大径木のブナの枯損が目立つ。低木層はツクシアケボノツツジが目立つが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



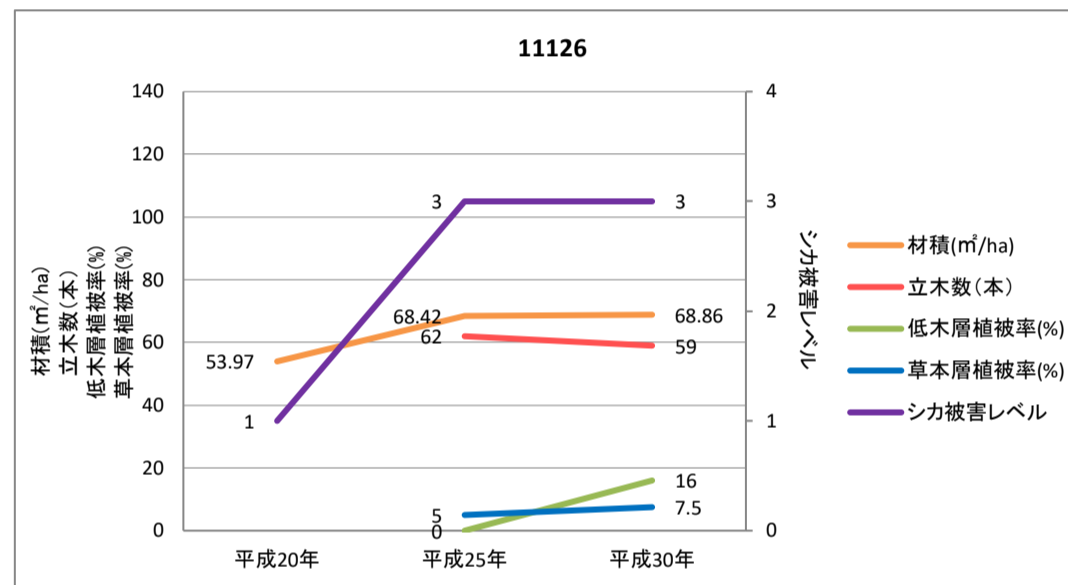
高木層は、アカマツとミズナラの大径木4本の枯損が確認された。低木層はアセビが目立つが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

①祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域(5)

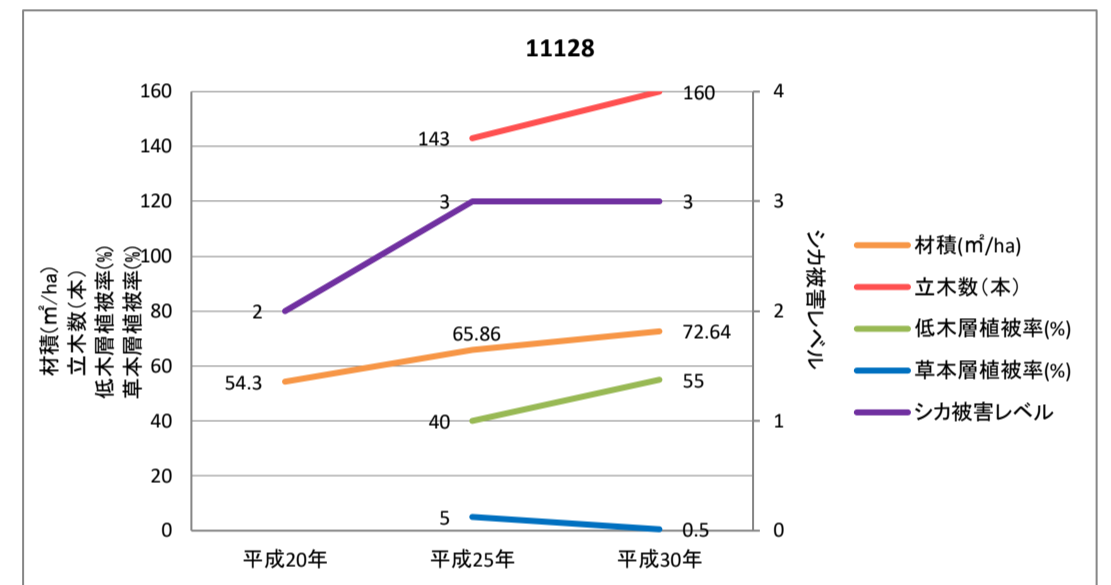
プロットNo.	11125			11126			11128			11129			11130			11131		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	44.49	25.06	29.66	53.97	68.42	68.86	54.3	65.86	72.64	31.94	48.36	48.56	12.8	5.92	4.35	36	38.3	40.03
立木数(本)		40	45		62	59		143	160		119	114		7	4		37	36
低木層植被率(%)		5	0		0	16		40	55		30	65		0	0		10	10
草本層植被率(%)		1	0		5	7.5		5	0.5		40	2.55		90	98		40	15
シカ被害レベル	2	3	4	1	3	3	2	3	3	2	3	3	1	3	4	1	3	3
低木層種数		1	0		0	3		3	4		2	1		0	0		2	1
草本層種数		4	5		12	3		2	4		5	10		9	21		6	8
低木層優占種			なし			ハイノキ			アセビ			アセビ			なし			タンナサワフタギ
草本層優占種			なし			ハイノキ、アセビ			アセビ			アセビ			ミヤコザサ			スズタケ



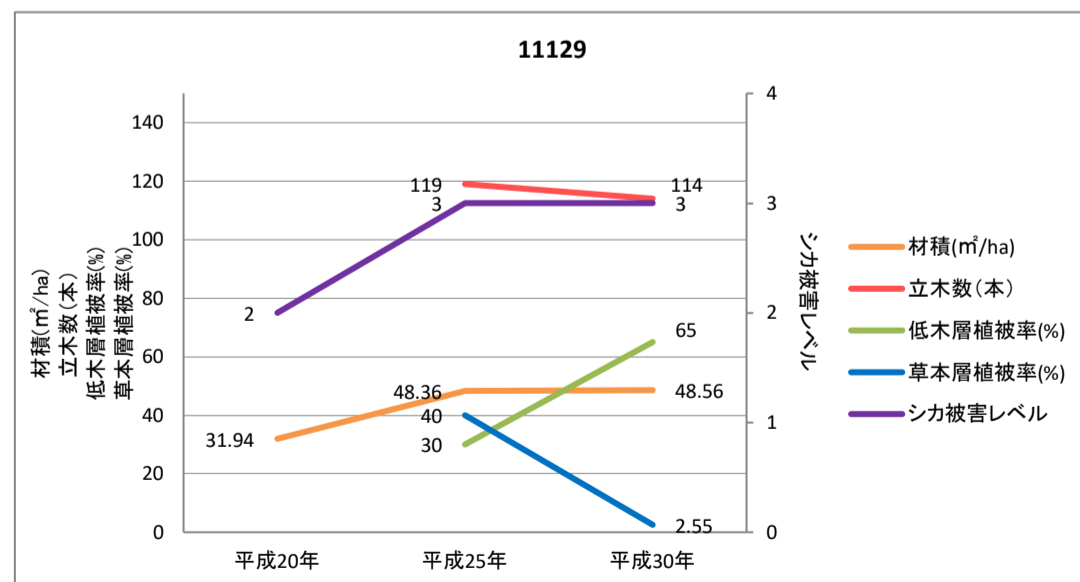
高木層は、ミズナラの大径木5本の枯損が確認された。低木層はほとんど立木がなく、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



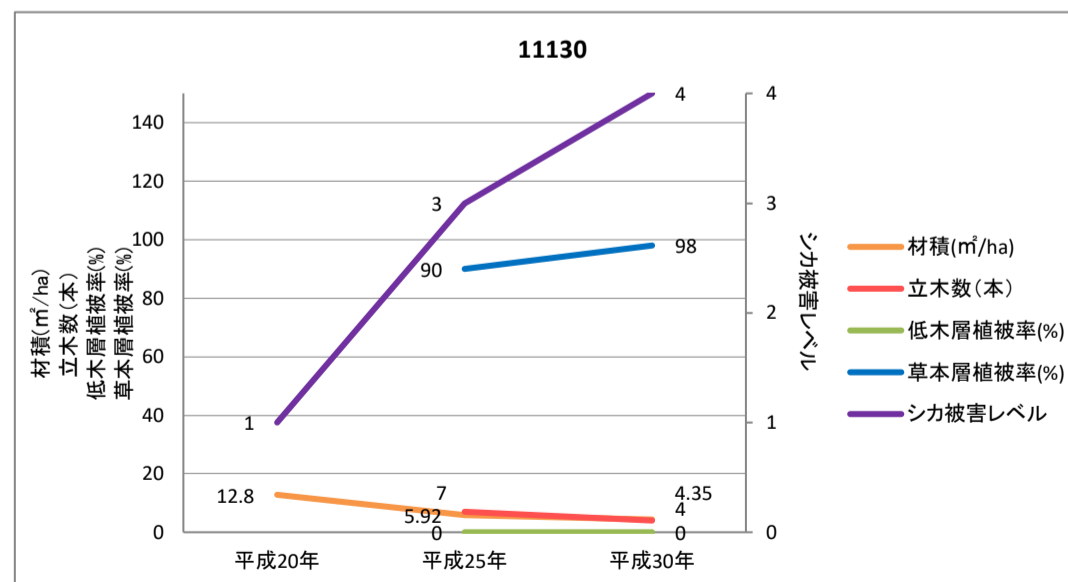
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。低木層はアセビやハイノキなどシカの忌避植物が優占し、一部ではアセビが群生するが、全体的に林内の見通しはよい。草本層は貧弱で、ハイノキの実生が目立つなど、シカの忌避植物のみが生育する。シカの古い樹皮剥ぎ跡あり。



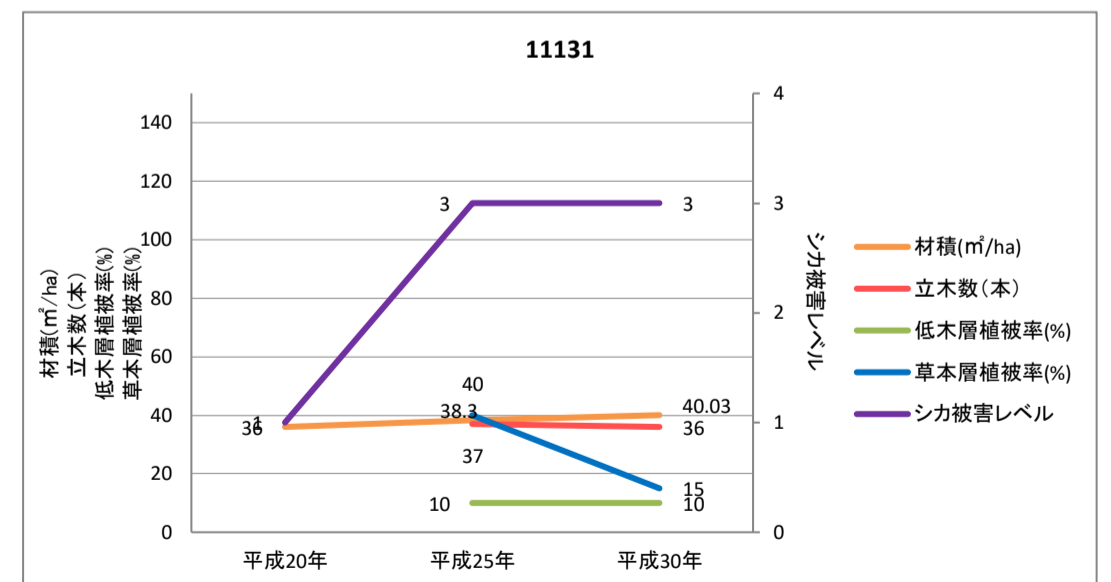
高木層では、天狗巣病の症状を呈するミズナラの大径木が確認された。低木層はアセビが優占し、東斜面はアセビの純林のようにになっている。林内の見通しはよく草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。低木のリュウブは、ほとんどがシカの剥皮被害を受けている。



大径木の枯損や倒伏はアオダモとクマシデの2本にとどまり、その他の高木層は健全である。低木層はシカの忌避植物であるアセビが密生し、純林のようにっており、林内の見通しは悪い。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



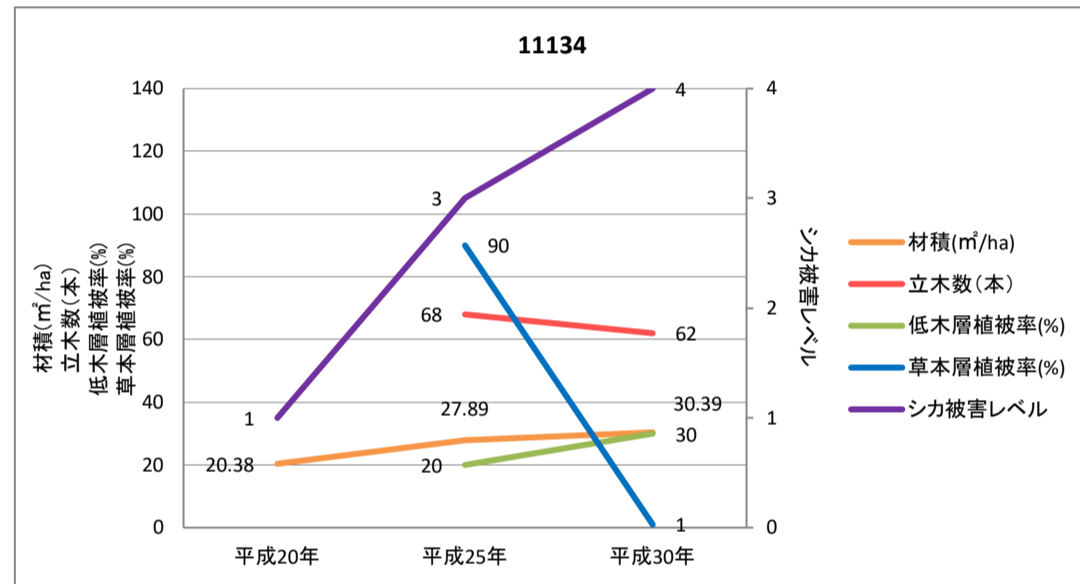
大径木の新たな枯損や倒伏が多く、高木層は健全性を欠く。尾根上で風が強いこともあり、過年度からすでにプロット内の立木が根本より折れて倒伏し、立木数自体少ない。林内の見通しは非常によい一方で、草本層はミヤコザサの草原になっており、植被率は100%近い。しかし、シカの採食により矮小化している。



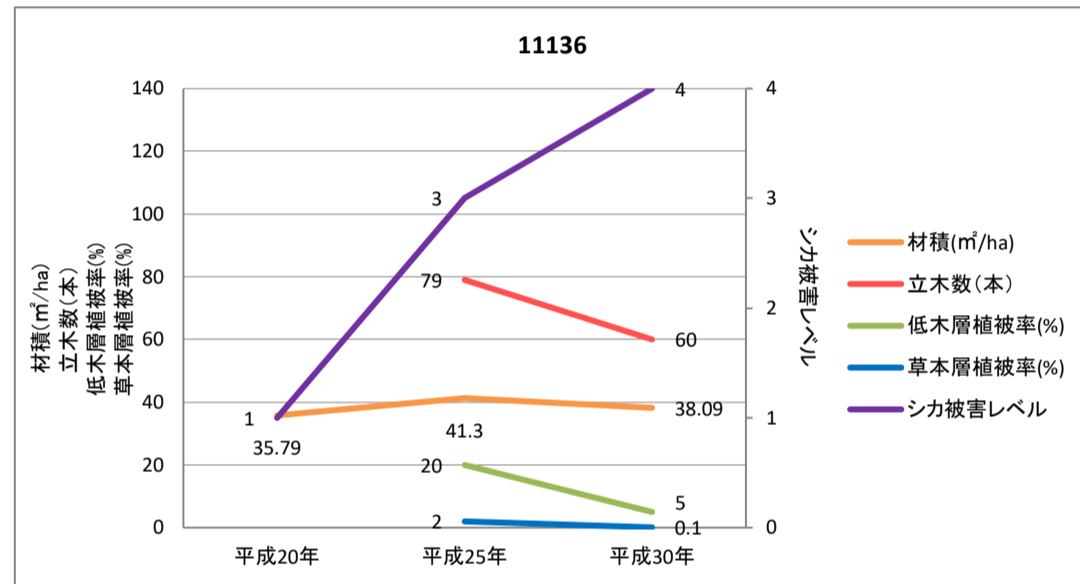
大径木の枯損や倒伏はブナ2本にとどまり、その他の高木層は健全である。低木層はほとんどなく、林内の見通しはよい。草本層はスズタケがまばらに生育しているが、シカの採食で矮小化している。

①祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域(6)

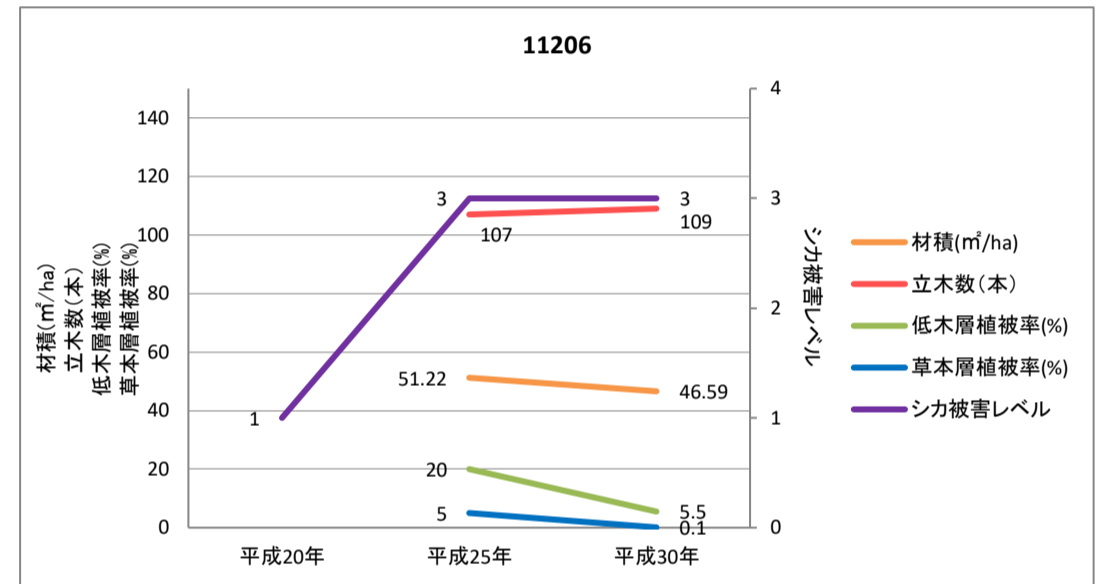
プロットNo.	11134			11136			11206			11207			11208			11209		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	20.38	27.89	30.39	35.79	41.3	38.09	51.22	46.59	50.32	55.32	44.82	44.54	23.43	43.56				
立木数(本)		68	62		79	60		107	109		67	64		55	120			
低木層植被率(%)		20	30		20	5		20	5.5		10	70		10	20			
草本層植被率(%)		90	1		2	0.1		5	0.1		30	0.5		2	5			
シカ被害レベル	1	3	4	1	3	4	1	3	3	1	3	3	1	3	3			
低木層種数		3	2		2	1		10	5		5	4		6	4			
草本層種数		1	13		4	10		9	6		13	4		17	14			
低木層優占種		ツクシアケボ ノツツジ			ナツツバキ			イヌガシ ハイノキ			アセビ ヒメシャラ			シキミ			ハイノキ ツクシアケボ ノツツジ	
草本層優占種		スズタケ			なし			なし			ヒメシャラ			シキミ ヒメミヤマ ミレ			ヒメシャラ ナガバモミジ イチゴ	



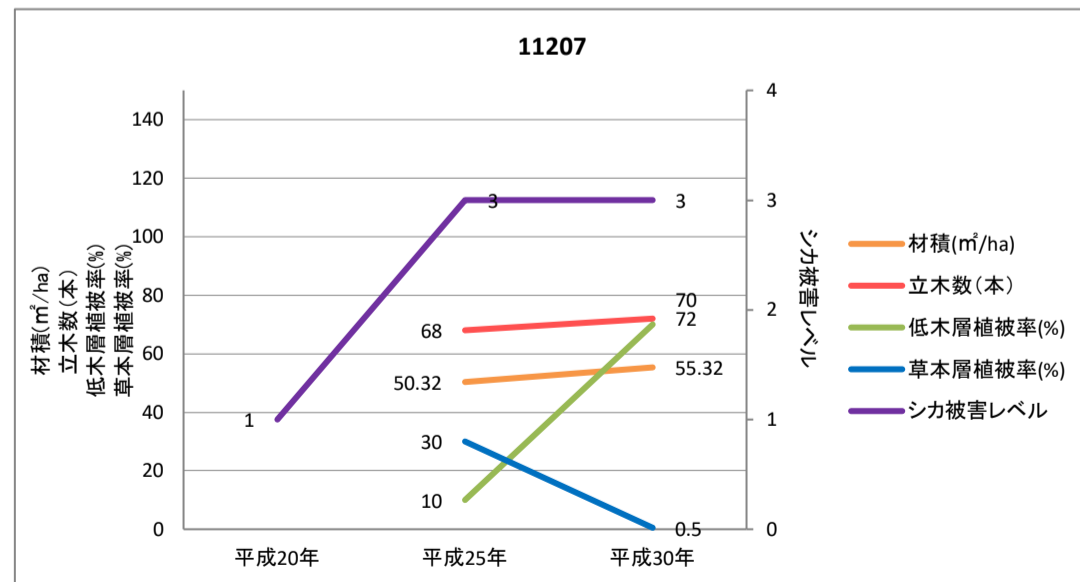
大径木のミズナラとブナの枯損が3本以上確認された。そもそも大径木の立木数は少なく、以前よりシカの影響を受けていたと思われる。低木層は全てのマンサクが枯れており、林内の見通しはよい。草本層はスズタケが生育しているが、そのほとんどは矮小化且つ枯死している。



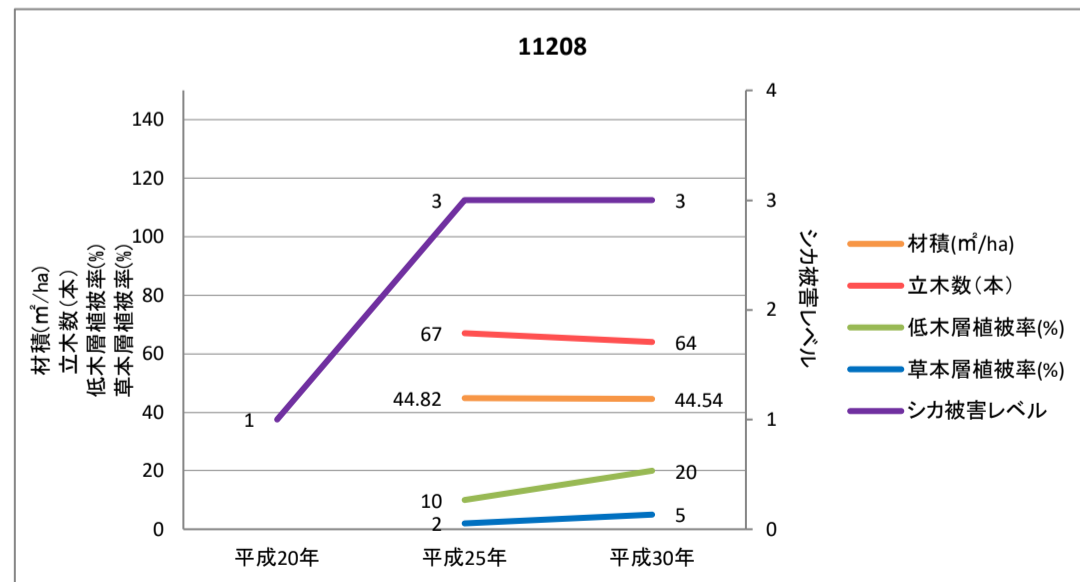
高木層はコシアブラやミズナラなど枯損が目立つ。シロモジやエゴノキなど低木層の立木はほとんどが枯死しており、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。尾根上のため乾燥化している可能性がある。



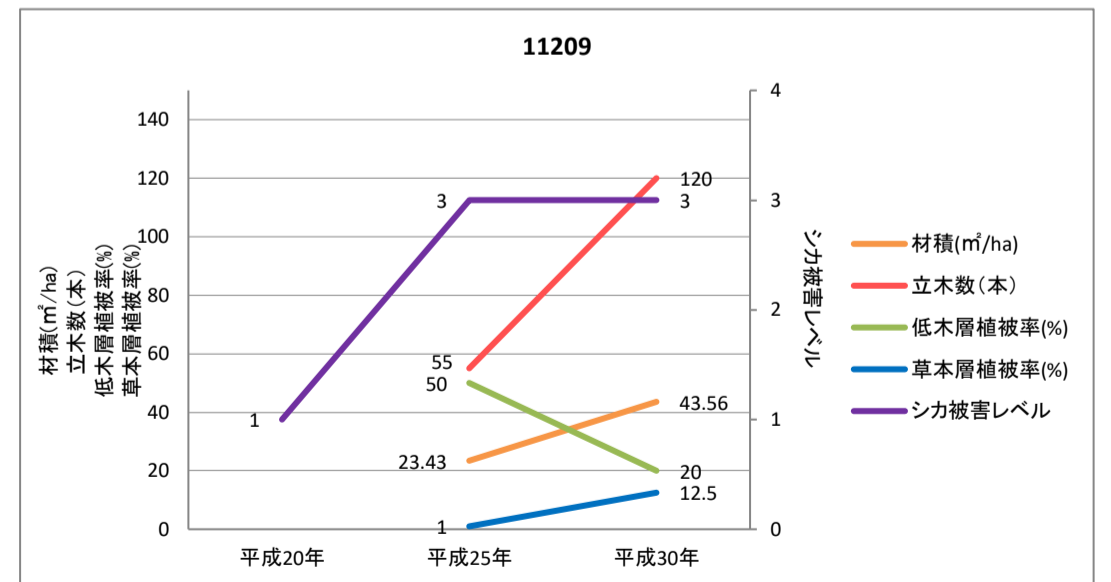
大径木の枯損や倒伏はほとんどなく、高木層は健全である。低木層はシカの忌避植物であるハイノキやイヌガシが目立ち、林内の見通しはやや悪い。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。低木層はヒメシャラの小径木やアセビが群落をつくっているため、林内の見通しは非常に悪く、種構成に偏りが見られる。草本層は植被率が極めて低く貧弱で、ヒメシャラやアセビなど低木層と同じ種構成となっている。



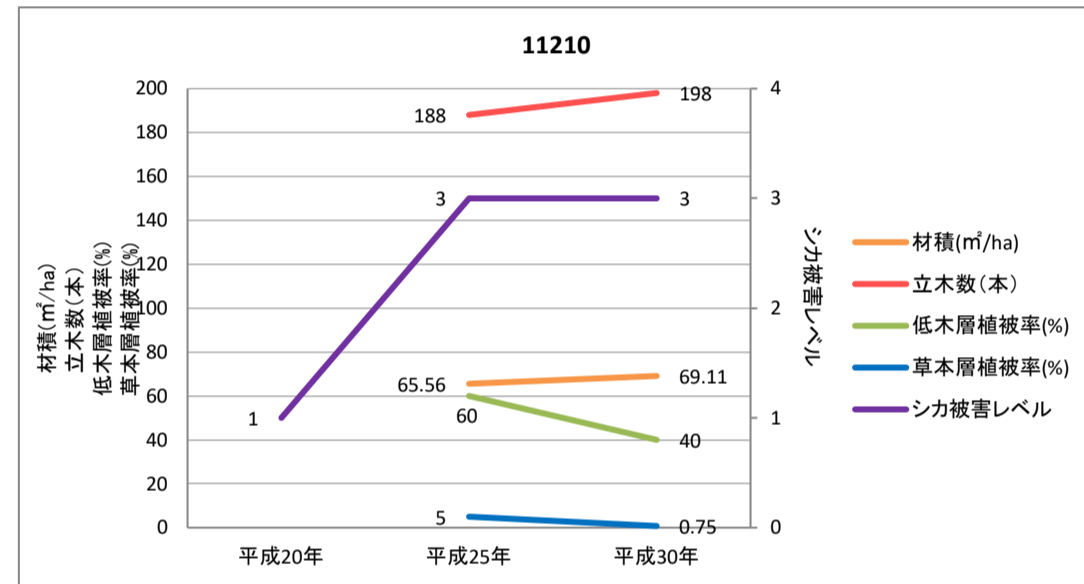
平成25年度より倒伏している大径木を除き、大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。低木層はシカの忌避植物であるシキミが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は貧弱で、シキミなどシカの忌避植物などわずかに生育する。



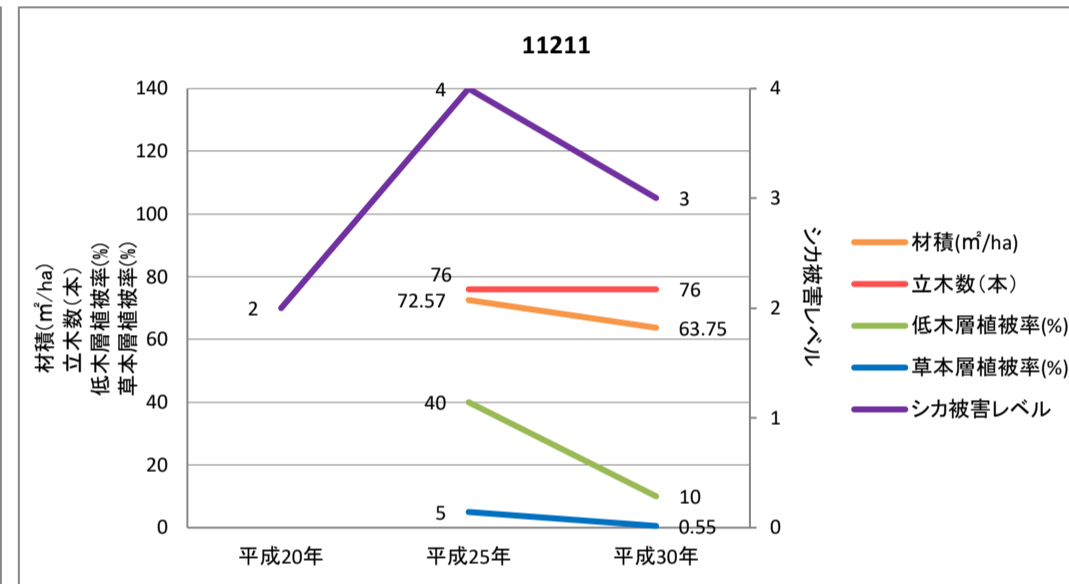
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。低木層はシカの忌避植物であるハイノキが繁茂しているところがあり、林内の見通しが悪いところもある。草本層はやや被度が高いところもあるが、ハイノキやヒメシャラなどが目立つ。

①祖母山・傾山・大崩山周辺森林生態系保護地域(7)

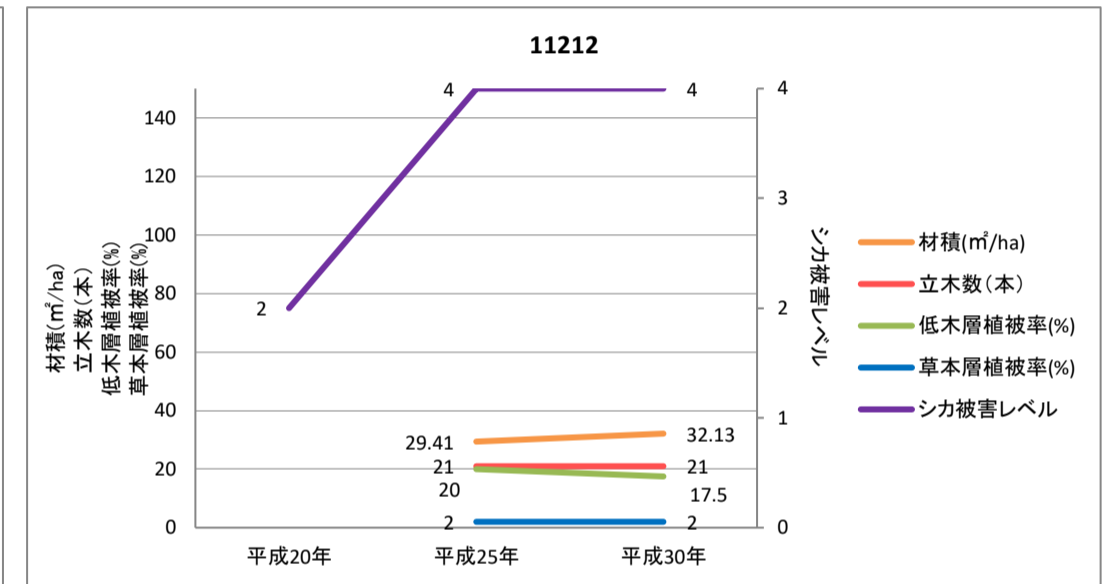
プロットNo.	11210			11211			11212		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)		65.56	69.11		72.57	63.75		29.41	32.13
立木数(本)		188	198		76	76		21	21
低木層植被率(%)		60	40		40	10		20	17.5
草本層植被率(%)		5	0.75		5	0.55		2	2
シカ被害レベル	1	3	3	2	4	3	2	4	4
低木層種数		10	5		3	1		3	1
草本層種数		5	5		7	13		4	13
低木層優占種			ハイノキ			ハイノキ			アセビ
草本層優占種			なし			ハイノキ			アセビ



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全である。低木層はハイノキが優占し、立木数も多いため林内の見通しは悪い。プロットの半分は岩場であるため、草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



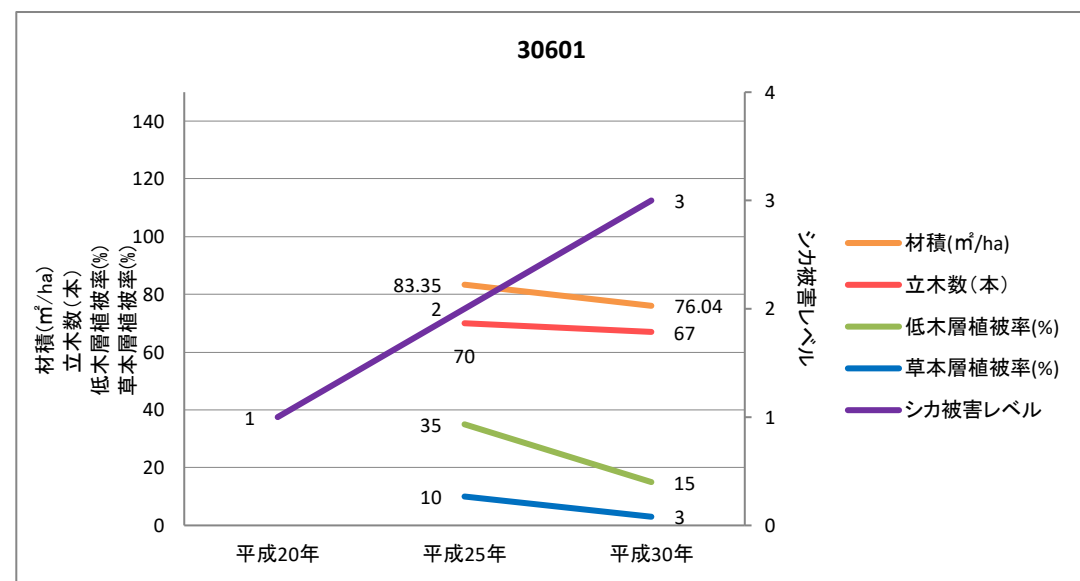
ツガやヒメコマツ、ナツツバキなどの大径木の追跡確認ができなかったものの、大径木の枯損や倒伏はブナ1本にとどまり、高木層は健全である。低木層はシカの忌避植物であるハイノキが優占し、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。僅かにスズタケの枯死稈が確認された。



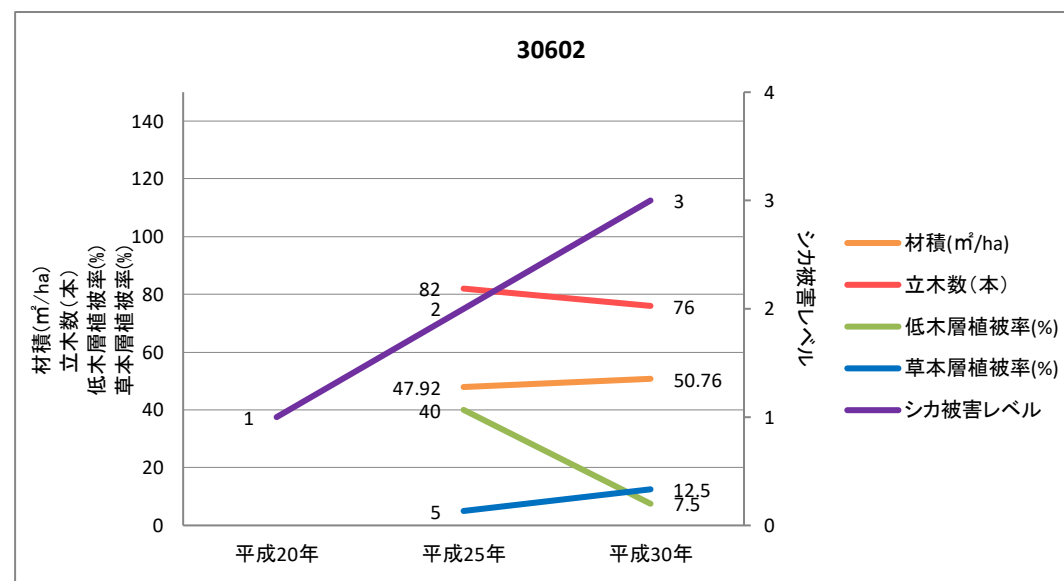
高木層は樹種不明の枯損が増加した。低木層はシカの忌避植物であるアセビが生育するが、立木数は少なく林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

③豆殿龍良山スタジイ等遺伝資源希少個体群保護林

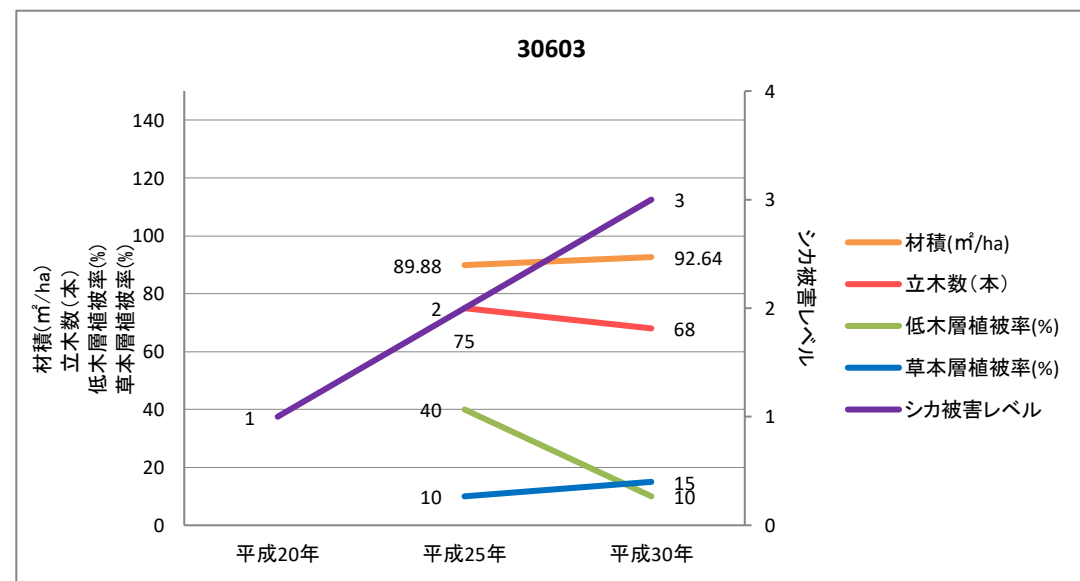
プロットNo.	30601			30602			30603			30604		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)		83.35	76.04		47.92	50.76		89.88	92.64		62.53	68.2
立木数(本)		70	67		82	76		75	68		111	99
低木層植被率(%)		35	15		40	7.5		40	10		30	0.5
草本層植被率(%)		10	3		5	12.5		10	15		2	1
シカ被害レベル	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	3	3
低木層種数		7	1		11	1		13	1		6	1
草本層種数		13	10		14	7		16	10		8	4
低木層優占種			イヌガシ			イヌガシ			イヌガシ			なし
草本層優占種			コバノカナワラビ アリドオシ			ホソバカナワラビ			アリドオシ			なし



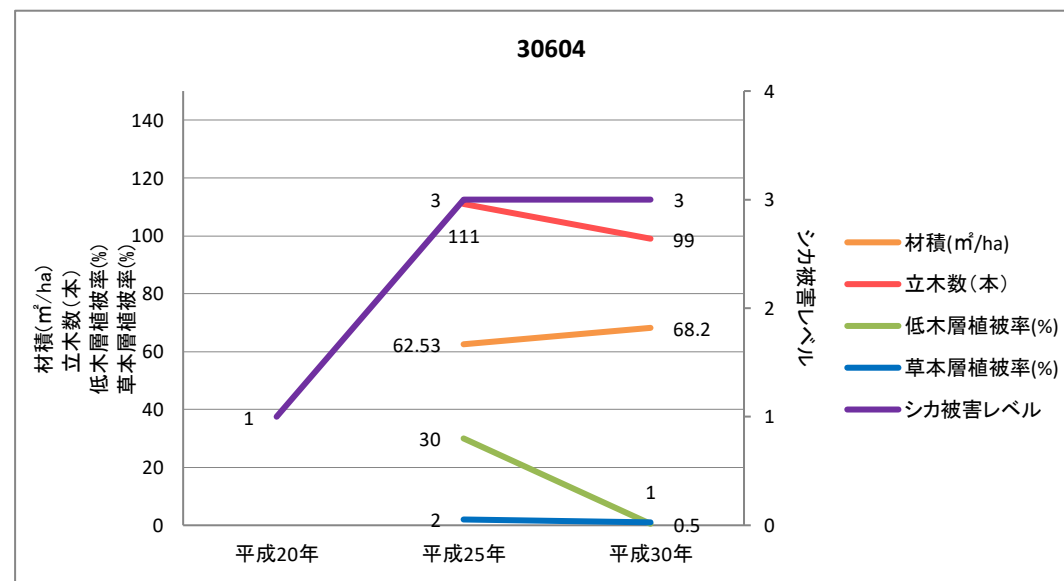
大径木の枯損はスタジイ1本のみで、高木層は健全。低木層はイヌガシが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



大径木の枯損はスタジイ1本のみで、高木層は健全。低木層はシカの忌避植物であるイヌガシやスタジイが生育するが、林内の見通しはよい。草本層は貧弱で、ホソバカナワラビが生育する他は植被率が低い。



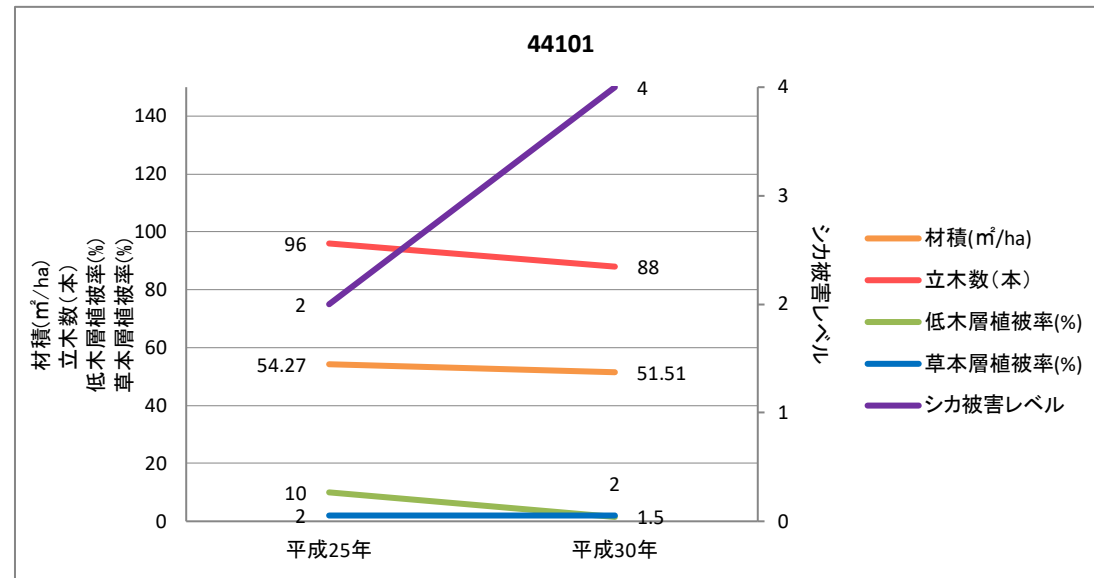
大径木のイヌノキの枯損が確認されたが、高木層は健全。低木層は2013年に確認されていたアオキの生育が全く確認されず、林内の見通しはよい。草本層は貧弱で、シカの忌避植物であるアリドオシが生育する以外は草本層は植被率が低い。



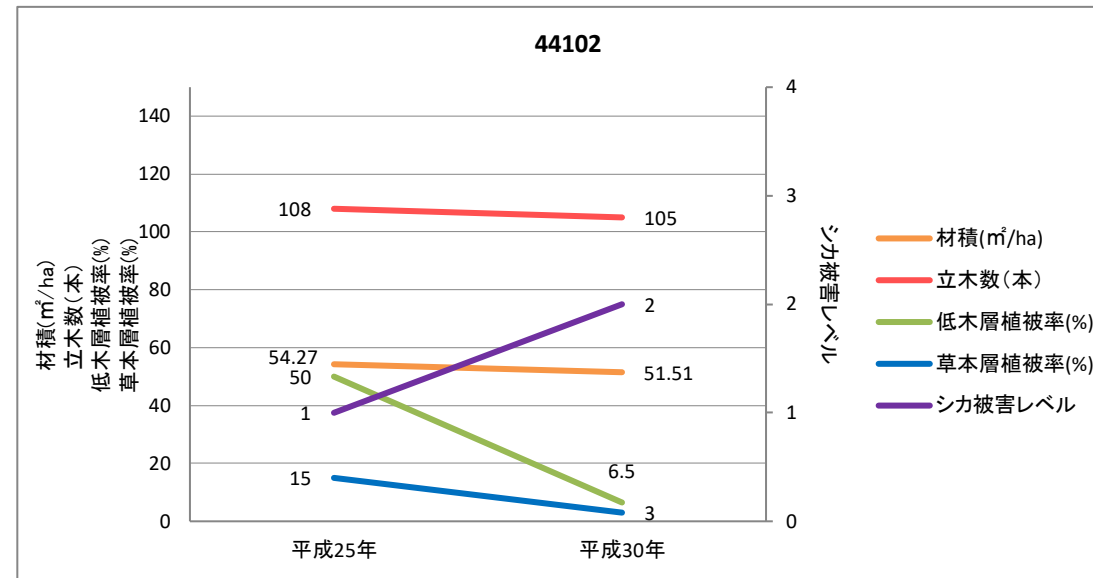
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層は2013年に確認されていたアオキの生育が全く確認されず、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

⑤対馬白嶽アカガシ等遺伝資源保護林

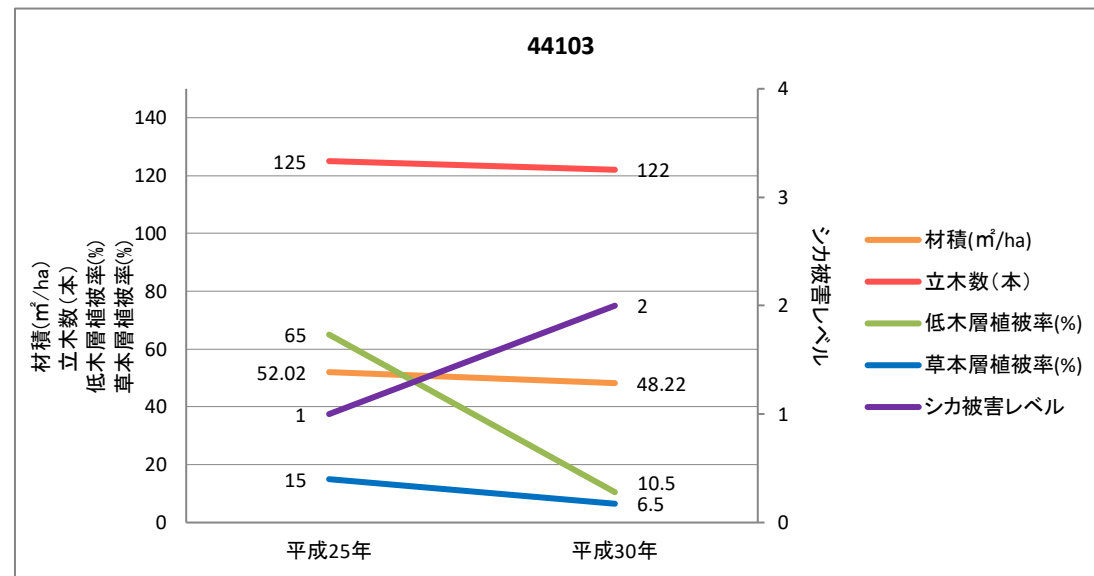
プロットNo.	44101		44102		44103		44104	
	(2013年 平成25年)	(2018年 平成30年)	(2013年 平成25年)	(2018年 平成30年)	(2013年 平成25年)	(2018年 平成30年)	(2013年 平成25年)	(2018年 平成30年)
材積(m ³ /ha)	54.27	51.51	54.27	51.51	52.02	48.22	64.46	69.59
立木数(本)	96	88	108	105	125	122	102	106
低木層植被率(%)	10	1.5	50	6.5	65	10.5	40	3
草本層植被率(%)	2	2	15	3	15	6.5	10	9
シカ被害レベル	2	4	1	2	1	2	1	3
低木層種数	3	1	9	1	9	3	5	3
草本層種数	2	8	16	13	12	11	14	19
低木層優占種		イヌガシ		イヌガシ		ヒサカキ		ヒサカキ
草本層優占種		なし		オシダ属		オシダ属		ベニシダ



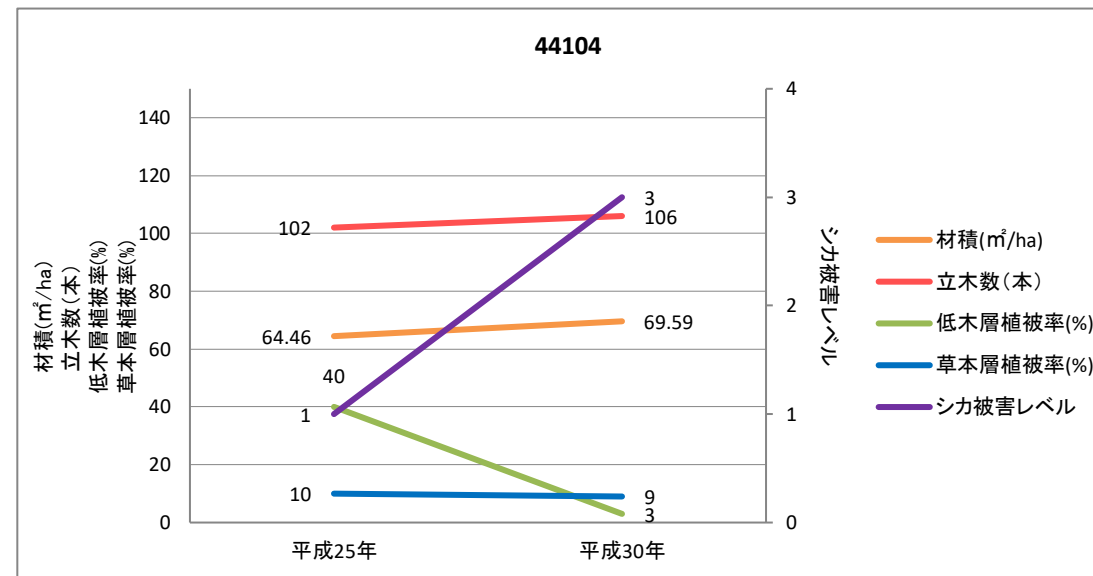
シカの皮剥による高木のタブノキの立ち枯れが目立つ。低木層はイヌガシが確認されるが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。林内の見通しはやや悪いが、シカの忌避植物が優占する。草本層は貧弱で露岩が多く、植被率が極めて低い。



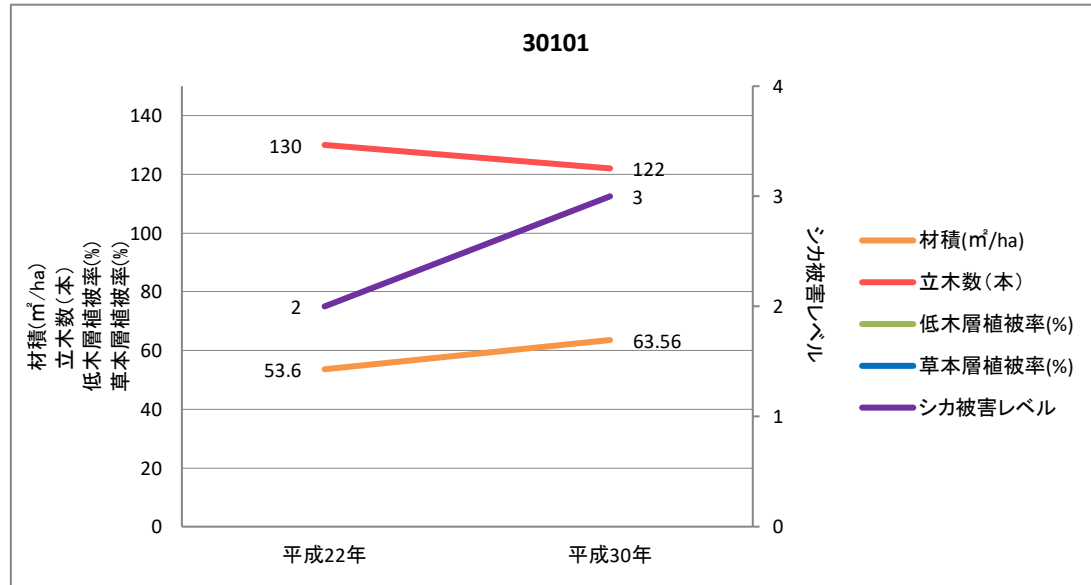
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。林内の見通しはやや悪く、低木層はヒサカキが優占する。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



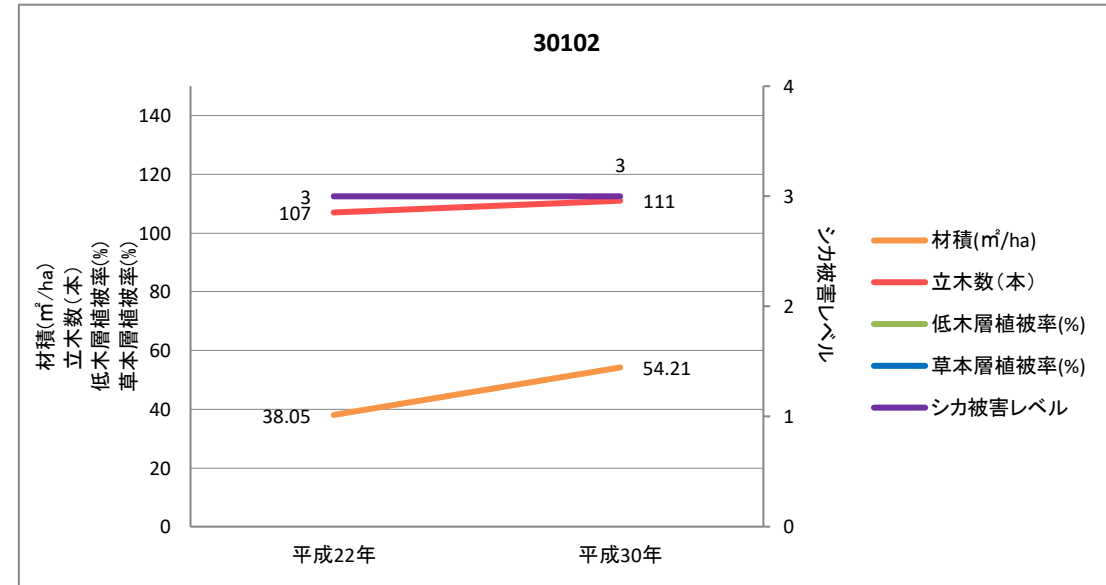
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。小径木が多いが林内の見通しはよい。草本層は貧弱で露岩が多く、植被率が極めて低い。

⑥英彦山スギ等遺伝資源希少個体群保護林

プロットNo.	30101		30102	
年(西暦/和暦)	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	53.6	63.56	38.05	54.21
立木数(本)	130	122	107	111
低木層植被率(%)	/	/	/	/
草本層植被率(%)	/	/	/	/
シカ被害レベル	2	3	3	3
低木層種数	/	/	/	/
草本層種数	/	/	/	/
低木層優占種	/	/	/	/
草本層優占種	/	/	/	/



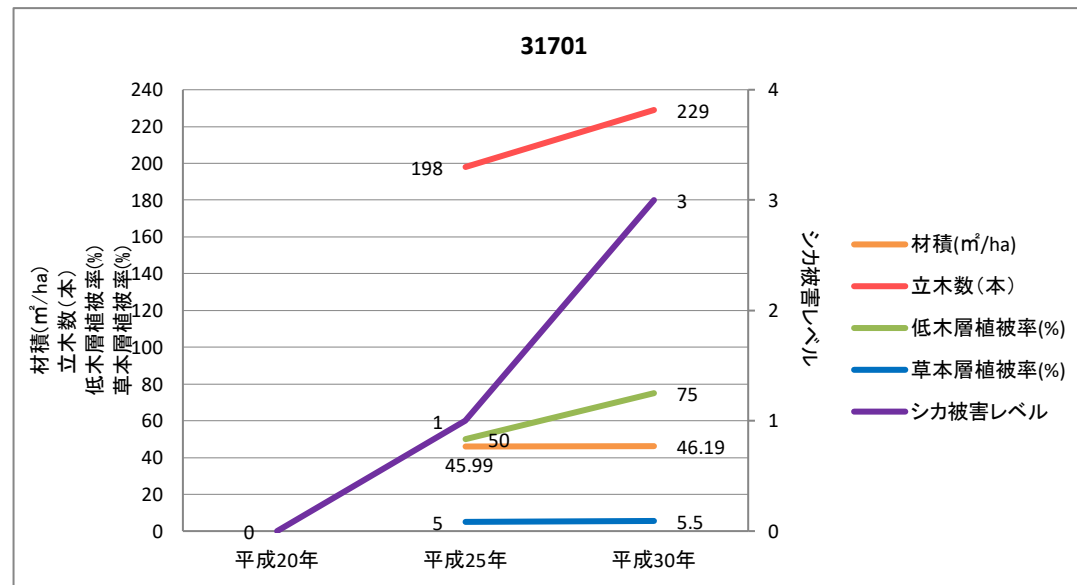
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はアブラチャンとハイノキが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は貧弱である。



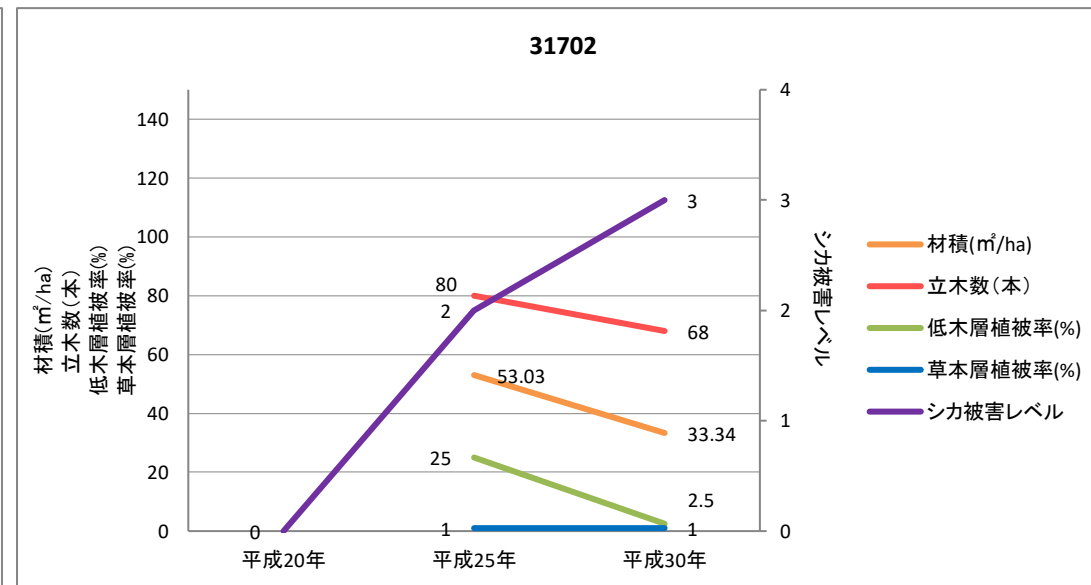
胸高直径18cm以上の高木の枯損が2本確認されたが、大径木の枯損はなく高木層は健全である。低木層はアブラチャンが優占するが、林内の見通しはよい。アブラチャンの萌芽に食痕が見られた。草本層は貧弱である。

⑧ 柏山アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

プロットNo.	31701			31702		
	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年	(2008年) 平成20年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)		45.99	46.19		53.03	33.34
立木数(本)		198	229		80	68
低木層植被率(%)		50	75		25	2.5
草本層植被率(%)		5	5.5		1	1
シカ被害レベル	0	1	3	0	2	3
低木層種数		11	9		6	2
草本層種数		30	17		12	17
低木層優占種			ヒサカキ オンツツジ			イヌガシ
草本層優占種			クロキ			なし



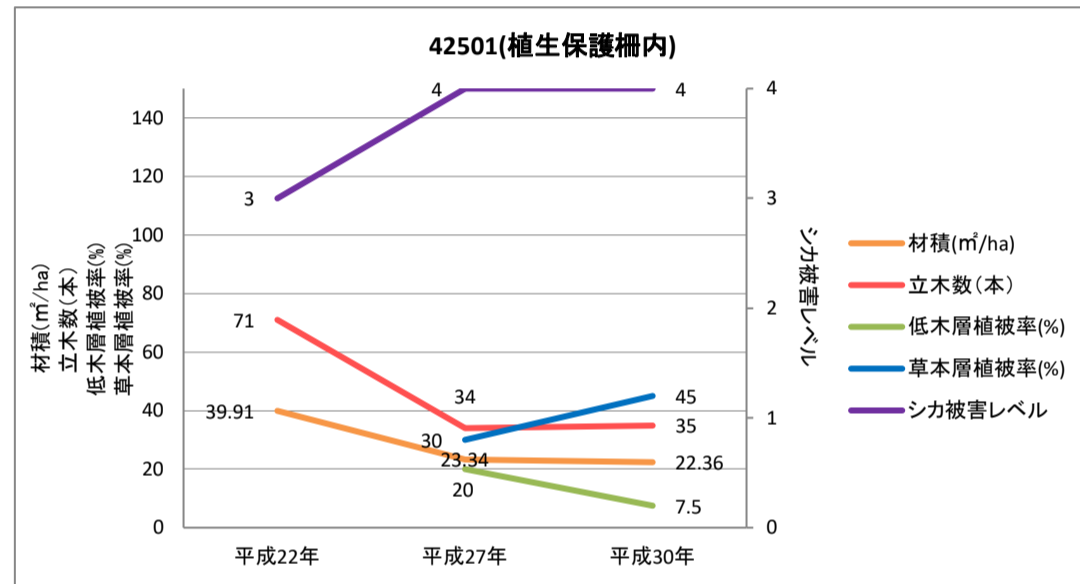
高木層は、アカマツが枯れており、マツ枯れが進行している。低木層はヒサカキやオンツツジが繁茂し、林内の見通しは悪い。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



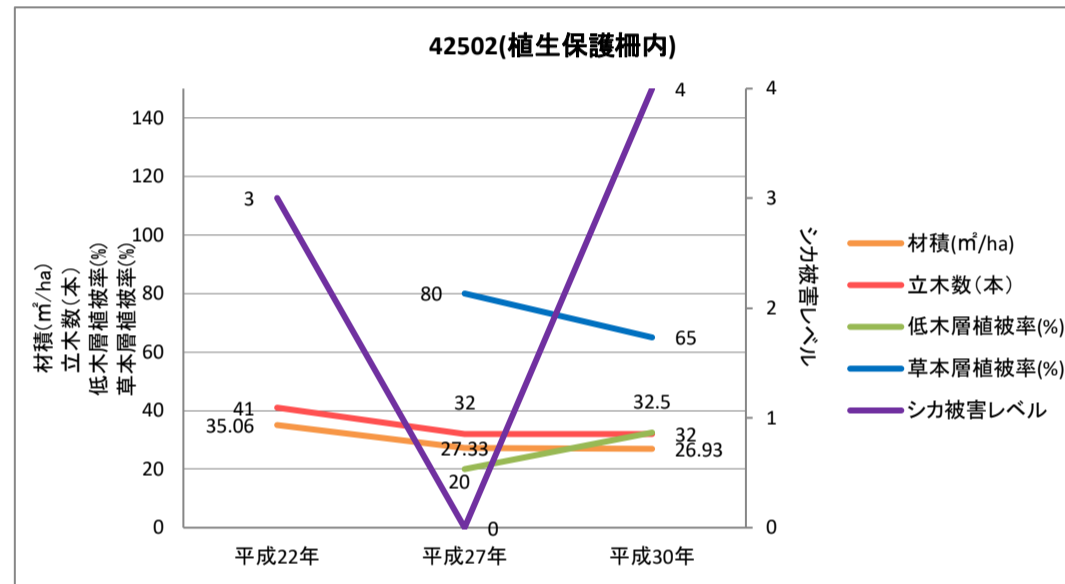
高木層は、アカマツは全て枯れており、マツ枯れが進行している。低木層はバリバリノキやイヌガシなどシカの忌避植物が優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

⑨白髪岳生物群集保護林

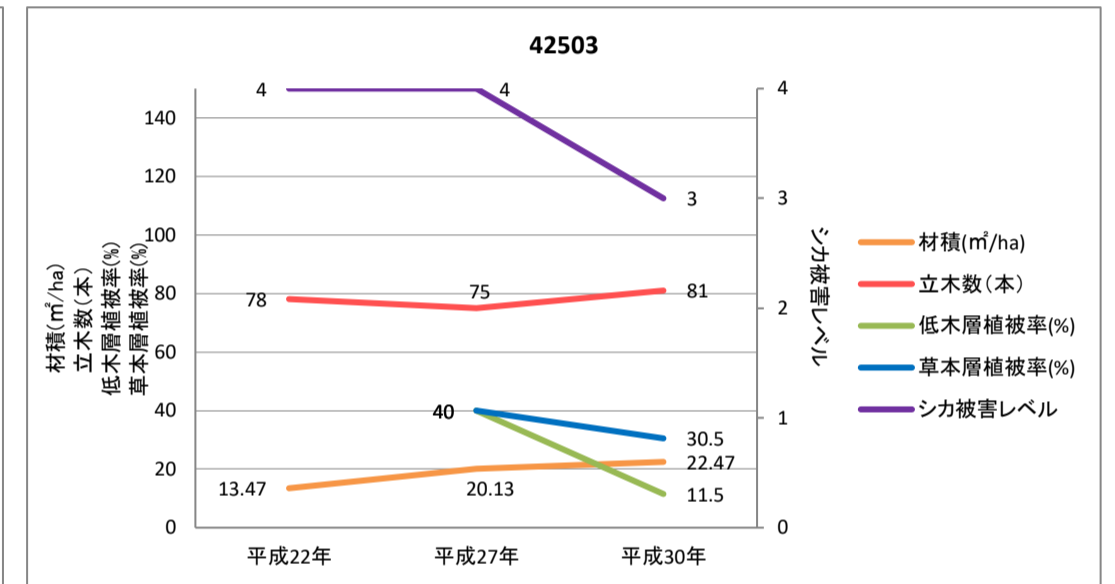
プロットNo.	42501(植生保護柵内)			42502(植生保護柵内)			42503			42504			42505			42506		
	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	39.91	23.34	22.36	35.06	27.33	26.93	13.47	20.13	22.47	7.64	12.68	13.68	39.93	38.17	34.56	34.71	48.7	49.45
立木数(本)	71	34	35	41	32	32	78	75	81	87	68	73	141	67	62	141	107	105
低木層植被率(%)	/	20	7.5	/	20	32.5	/	40	11.5	/	40	17.5	/	50	35	/	50	35
草本層植被率(%)	/	30	45	/	80	65	/	40	30.5	/	90	100	/	30	8	/	30	15
シカ被害レベル	3	4	4	3	0	4	4	4	3	4	4	3	3	2	4	3	3	3
低木層種数	/	4	4	/	2	5	/	3	2	/	4	3	/	5	3	/	4	2
草本層種数	/	15	25	/	13	26	/	8	16	/	5	12	/	14	21	/	7	11
低木層優占種	タンナサワフタギ、シキミ			ナツツバキ			ミツバツツジ節			サワフタギ			シキミ			ハイノキ		
草本層優占種	アシボン			スズタケ			コバノイシカグマ			コバノイシカグマ、イフヒメワラビ			シキミ、シモバシラ			ツルシキミ		



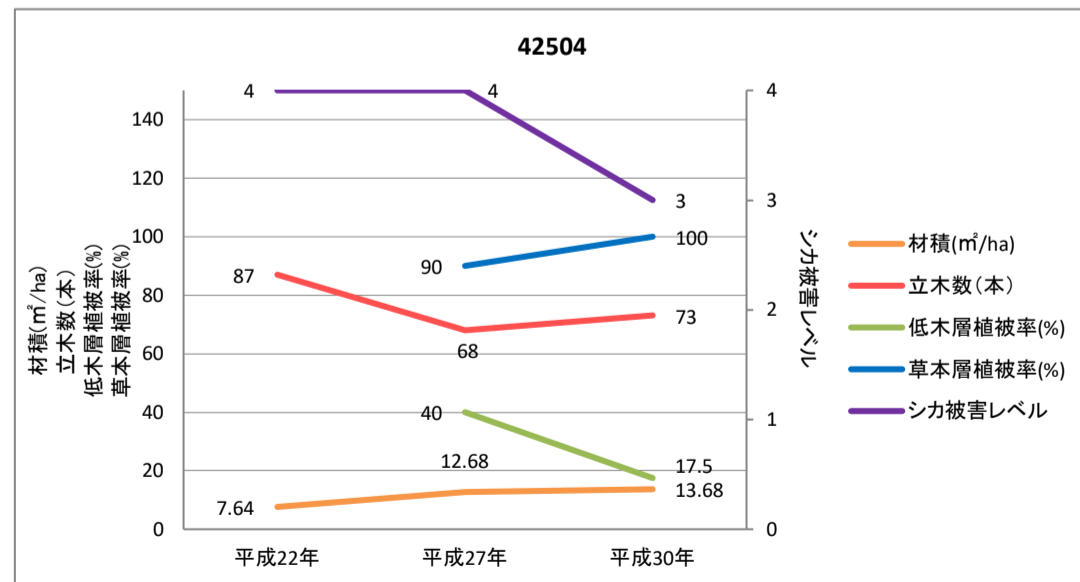
大径木の枯損及び倒伏が新たに2本確認された。植生保護柵内だが草本層は貧弱であることから、柵内にシカが侵入していると思われる。シカの忌避植物であるバイケイソウやアシボンが群落を形成していた。



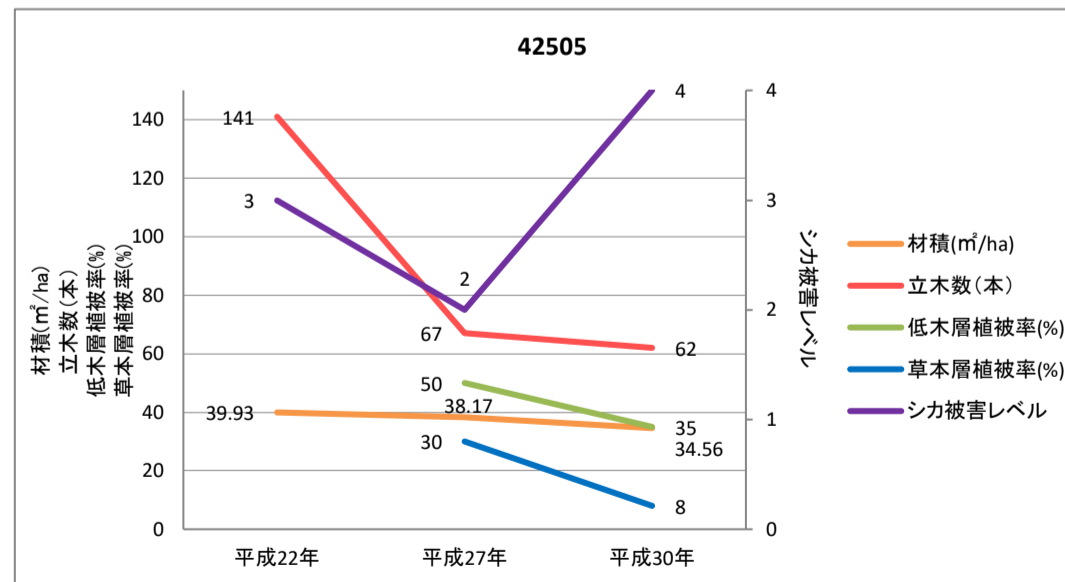
平成27年度すでに枯死していた大径木(樹種不明)が確認されたが、新たな枯損は無かった。低木層はナツツバキが繁茂し林内の見通しはよくないが、種構成に偏りが見られる。植生保護柵内だが以前よりスズタケが衰退している。シカの痕跡があり、柵内にシカが侵入している。



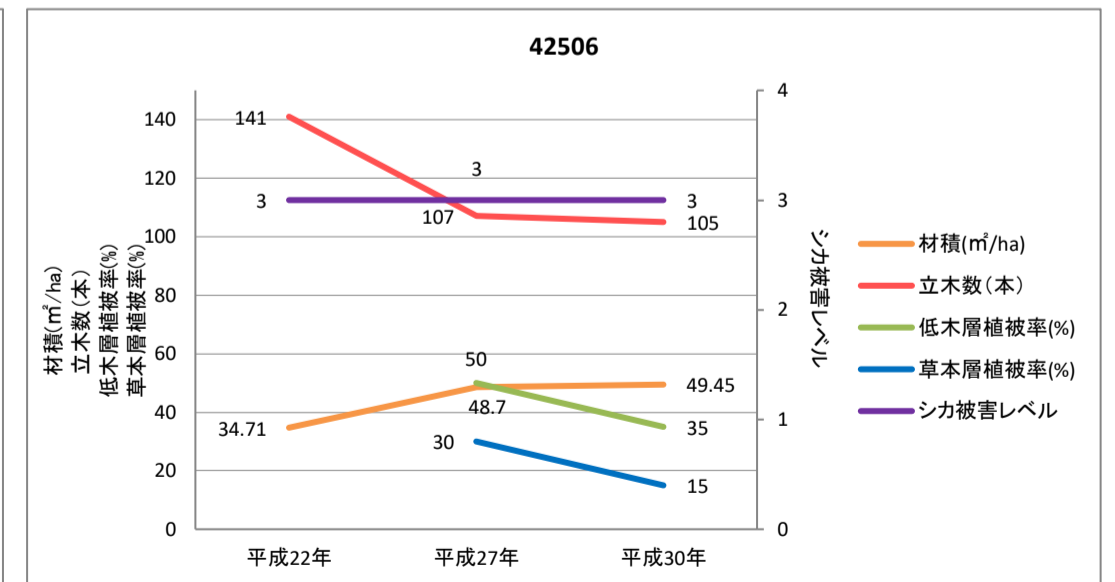
大径木の枯損はなく、高木層は健全である。低木はほとんどなく、林内の見通しはよい。草本層はシカの忌避植物であるコバノイシカグマとアシボンが覆っている。



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はサワフタギが優占するが、林内見通しはよい。草本層はシカの忌避植物であるコバノイシカグマとイフヒメワラビが覆っている。シカの採食による影響を大きく受けている。



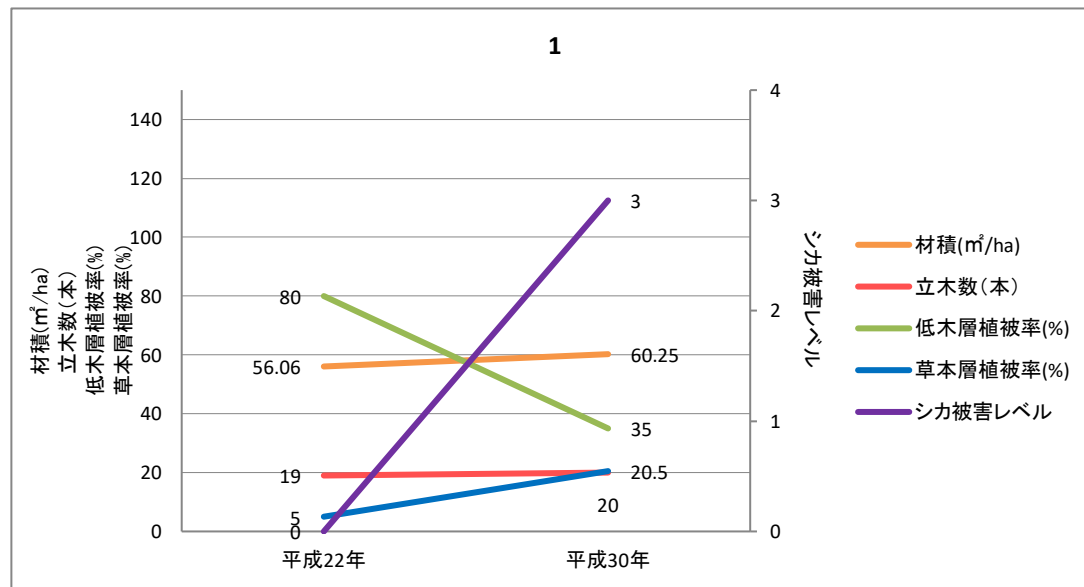
大径木の倒伏や枯損が確認された。低木はシキミが優占するが林内見通しはよい。草本層は貧弱で、シカの忌避植物が優占する。



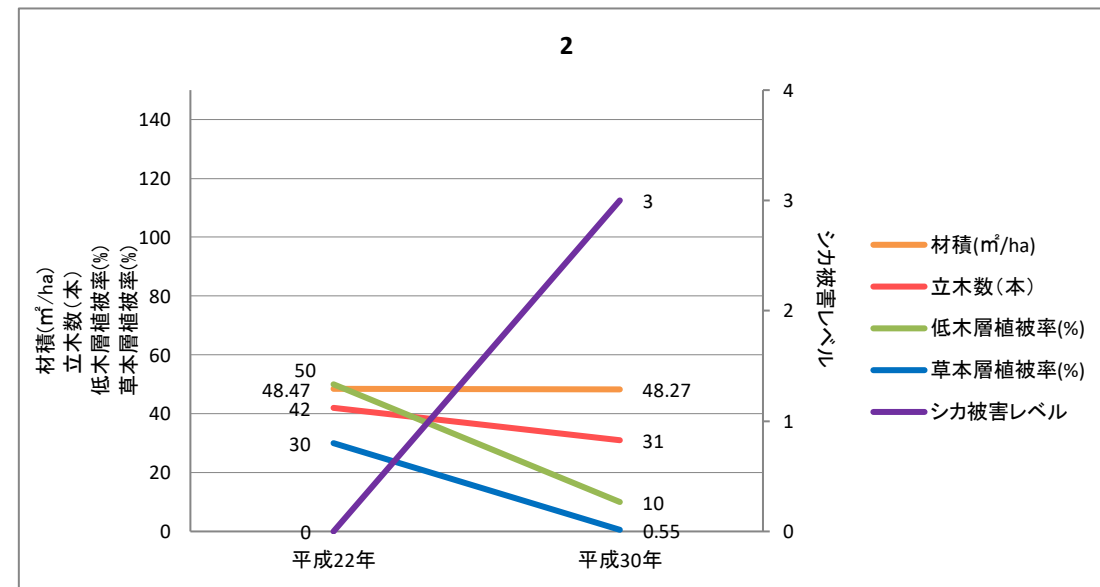
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はシカの忌避植物であるシキミとハイノキが優占し、林内の見通しは悪い。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

⑩ 釈迦院スギ希少個体群保護林

プロットNo.	1		2	
	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	56.06	60.25	48.47	48.27
立木数(本)	19	20	42	31
低木層植被率(%)	80	35	50	10
草本層植被率(%)	5	20.5	30	0.55
シカ被害レベル	0	3	0	3
低木層種数	2	3	4	2
草本層種数	30	24	17	12
低木層優占種		マダケ		イヌガシ
草本層優占種		ヒメバライチゴ		シロダモ



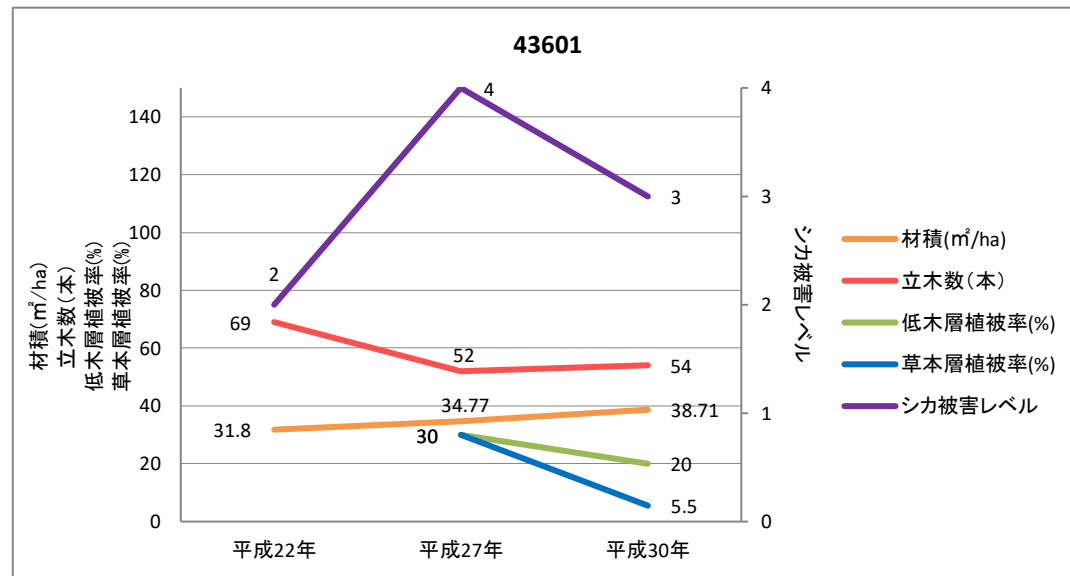
大径木のスギとヒノキが枯れかけている。低木層はシロダモやハイノキ等シカの忌避植物がマダケに次いで優占していた。マダケが開花枯死しており、平成22年度と比較し林内の見通しが非常によくなっている。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。スズタケはプロット外の斜面上部の車道脇に高さ2mほどで密生。



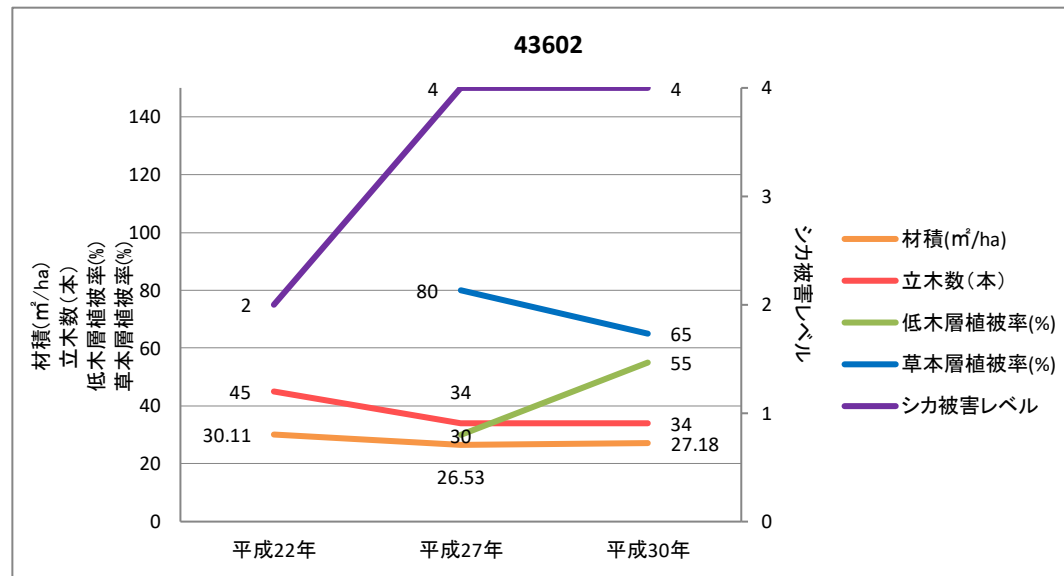
スギ大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。林内にマダケが生育しているが開花枯死しており、平成22年度と比較し林内の見通しが非常によくなっている。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。スズタケはプロットへのアクセスルート上に高さ2mほどで生育する。

⑪崩川内モミ等希少個体群保護林

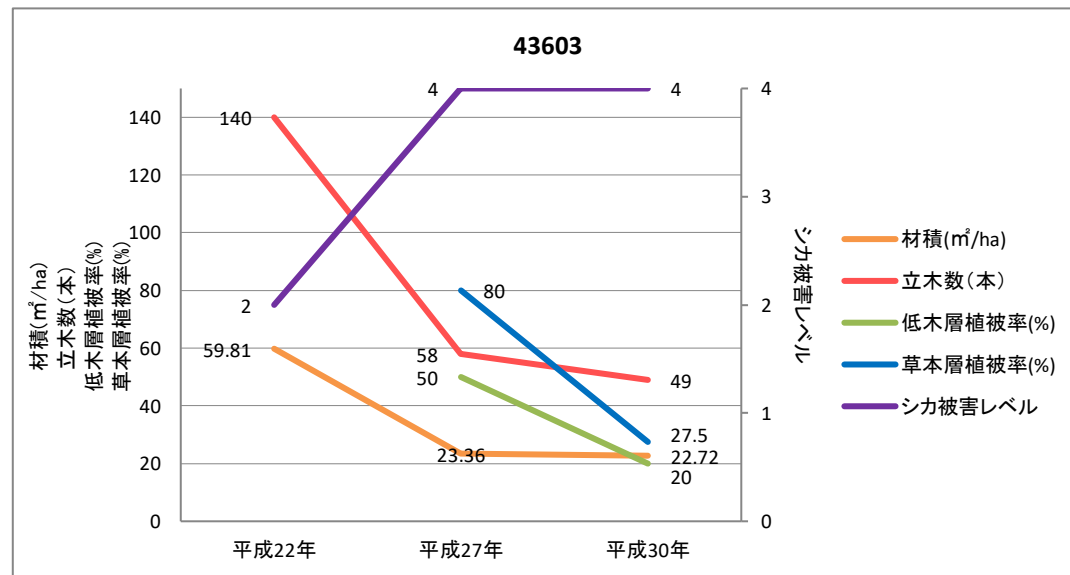
プロットNo.	43601			43602			43603			43604		
	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2015年) 平成27年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	31.8	34.77	38.71	30.11	26.53	27.18	59.81	23.36	22.72	33.6	40.23	35.17
立木数(本)	69	52	54	45	34	34	140	58	49	114	58	57
低木層植被率(%)		30	20		30	55		50	20		40	17.5
草本層植被率(%)		30	5.5		80	65		80	27.5		50	1.5
シカ被害レベル	2	4	3	2	4	4	2	4	4	2	4	4
低木層種数		4	1		2	3		3	1		3	1
草本層種数		13	15		11	16		13	10		15	9
低木層優占種			シロモジ			ミヤマシキミ			シロモジ			シロモジ
草本層優占種			ミヤマシキミ			アシボン			ヤマカモジグサ			ヤマカモジグサ



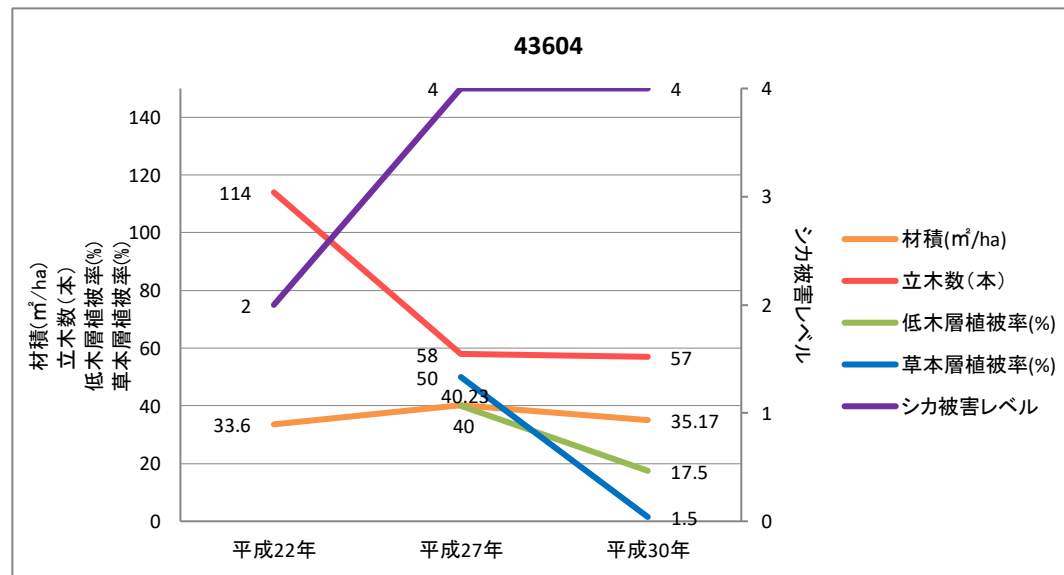
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はシロモジが僅かに確認される程度で、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。ヒメシャラの樹皮剥ぎが散見された。



プロット周辺で大径木の古い倒伏が確認されたが、プロット内の大径木の新たな枯損は確認されなかった。低木層はコハクウンボクやミヤマシキミが確認されたが、立木数自体少なく、林内の見通しはよい。草本層はアシボンが優占し、プロット中心にはミヤマシキミが群生している。



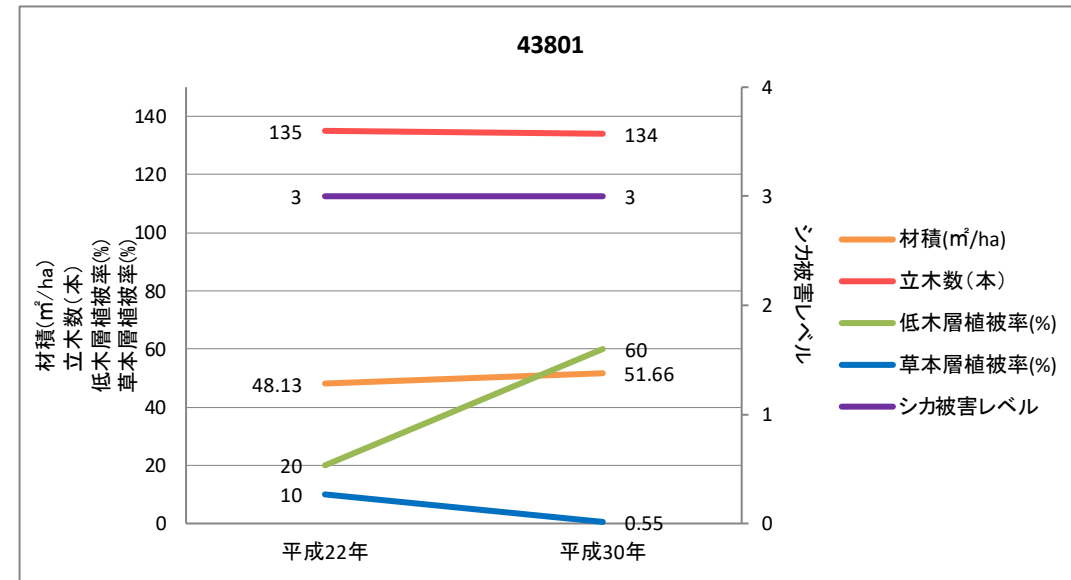
平成27年度すでに倒伏した大径木が目立つ。低木層はシロモジが生育しているものの林内の見通しはよい。一部にヤマカモジグサが群生している箇所もあるが、草本層は貧弱である。林床は土壌がむき出しになっているところがあり、表土流失が懸念



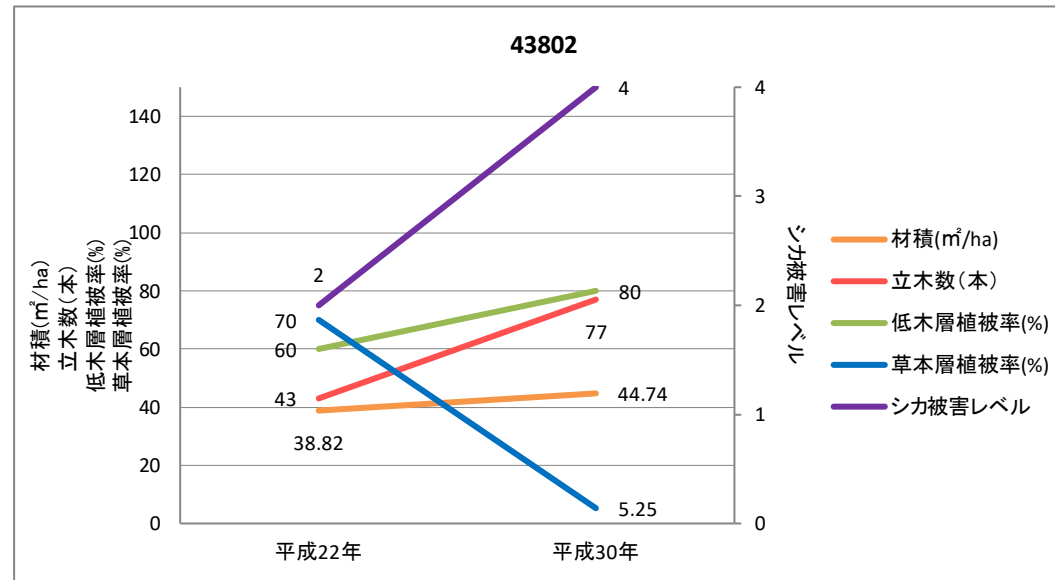
平成27年度すでに倒伏した大径木が目立つ。低木層はシロモジが生育しているが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

⑫ 掃部岳生物群集保護林

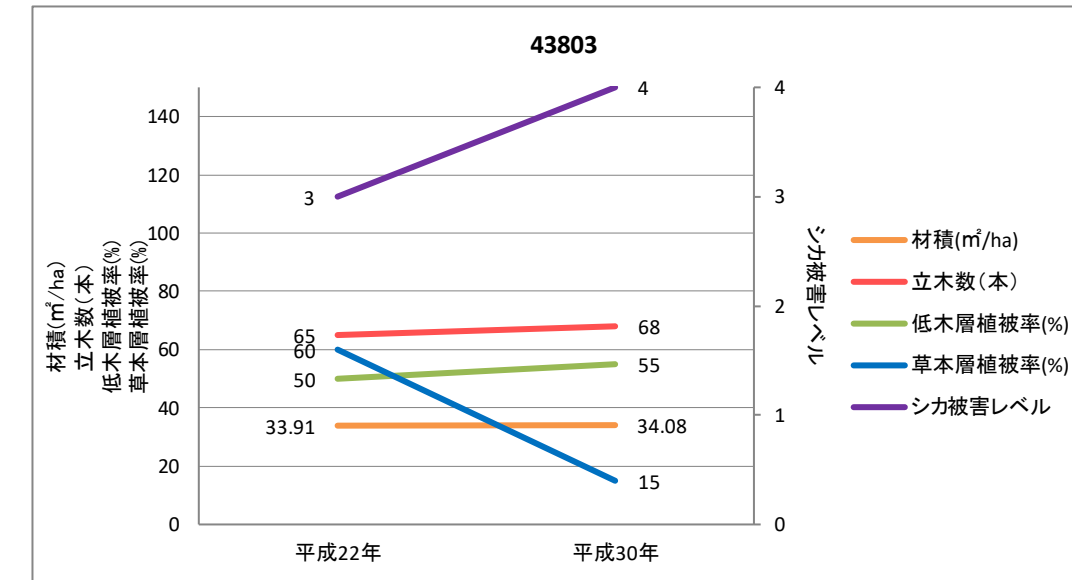
プロットNo.	43801		43802		43803		43804		43805		43806		43807		43808	
	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年	(2010年) 平成22年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	48.13	51.66	38.82	44.74	33.91	34.08	52.91	61.63	39.79	54.48	25.28	39.34	47.66	41.89	20.33	36.76
立木数(本)	135	134	43	77	65	68	141	144	57	59	70	111	116	96	22	61
低木層植被率(%)	20	60	60	80	50	55	60	35	40	80	45	60	10	30	30	75
草本層植被率(%)	10	0.55	70	5.25	60	15	30	12.5	10	3.5	3	3	5	0.5	2	3
シカ被害レベル	3	3	2	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	4	3	4
低木層種数	5	8	6	4	5	7	2	5	3	3	5	8	4	5	4	6
草本層種数	9	7	12	9	15	20	5	11	2	8	1	9	4	2	1	10
低木層優占種		ヒサカキ		ハイノキ		ヒメシャラ、シキミ		ハイノキ		ハイノキ		ハイノキ、ツクシコバノミ、ツバツツジ		シキミ、ヒサカキ		ハイノキ、コガクウツギ
草本層優占種		コウヤコケシノブ		コガクウツギ		マツカゼソウ、ハイノキ		ハイノキ		ハイノキ		ミヤマシキミ		ハイノキ		なし



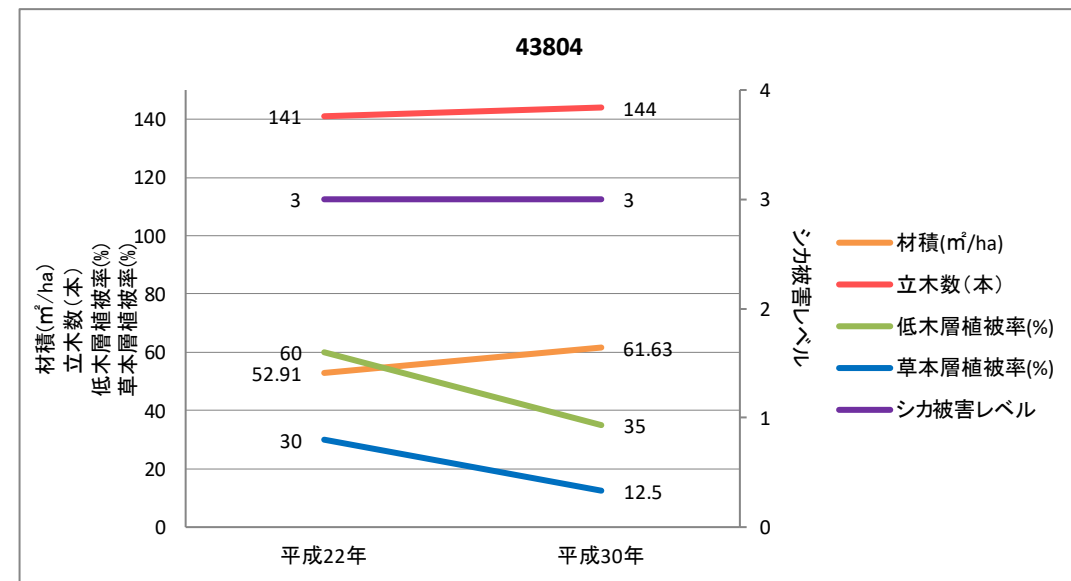
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はイヌガシやヒサカキが生育するが、林内の見通しはよい。林床は礫が多く、草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



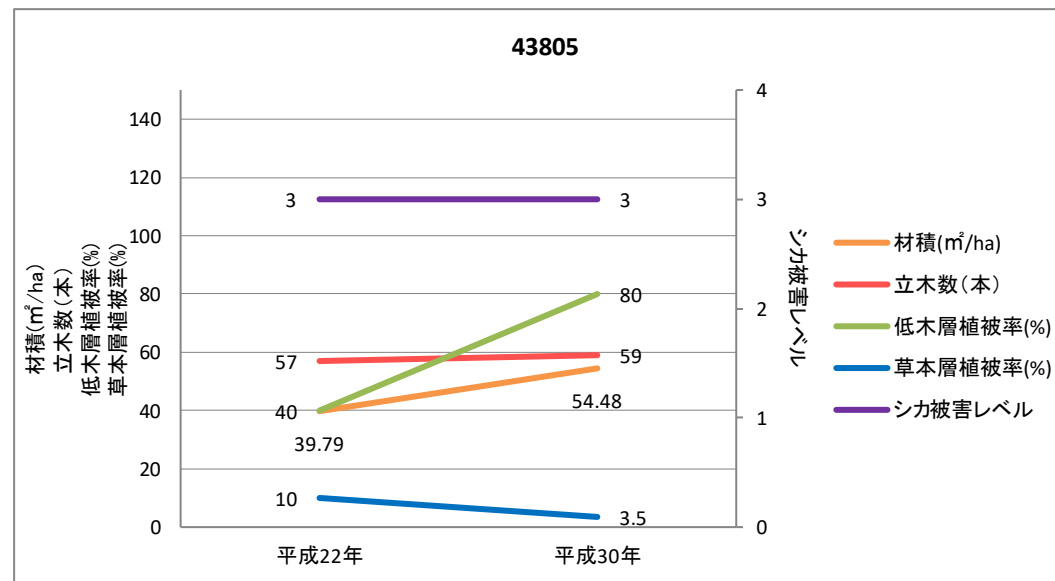
高木層は大径木のブナやアカガシなどの新たな枯損が確認された。低木層はシカの忌避植物であるシキミとハイノキが繁茂し、林内の見通しは悪い。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



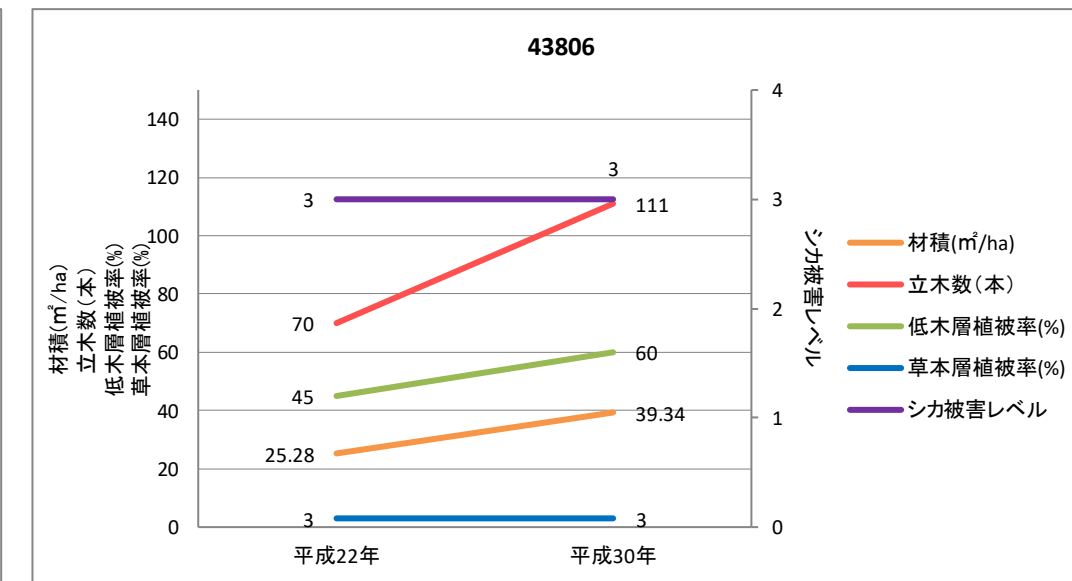
高木層はブナやアオハダの大径木の枯損が確認された。プロット中心にギャップが生じており、そこにシカの忌避植物であるマツカゼソウやコガクウツギ、ハイノキの生育が確認された。また低木のヒメシャラやシキミも繁茂しており林内の見通しは悪い。草本層は貧弱で、シカの忌避植物であるマツカゼソウやハイノキが優占した。



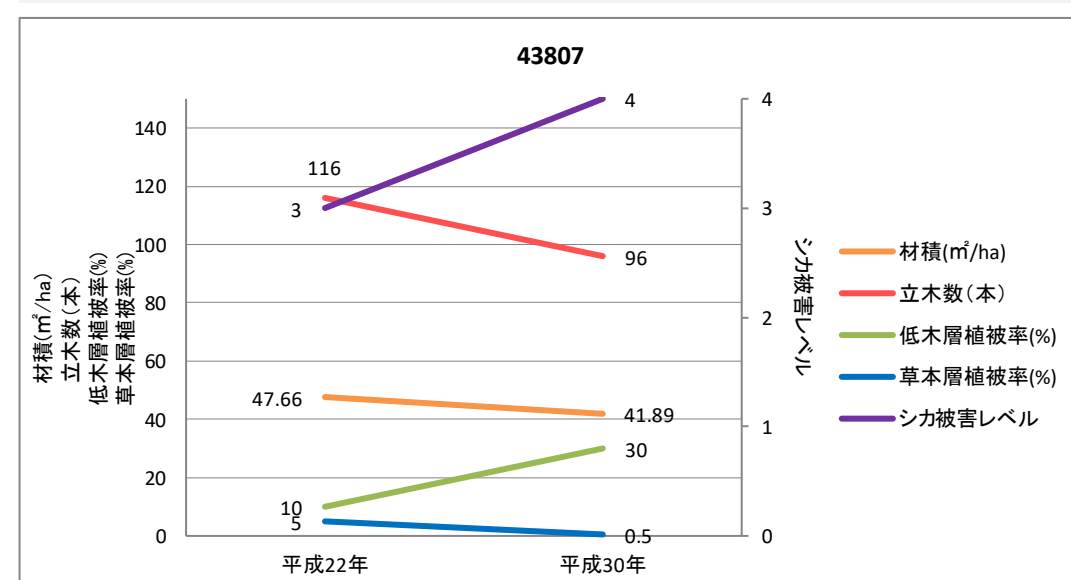
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層以下はシカの忌避植物であるハイノキやアセビが優占するが、林内の見通しはよい。草本層もハイノキが優占しているが植被率が極めて低く、貧弱である。



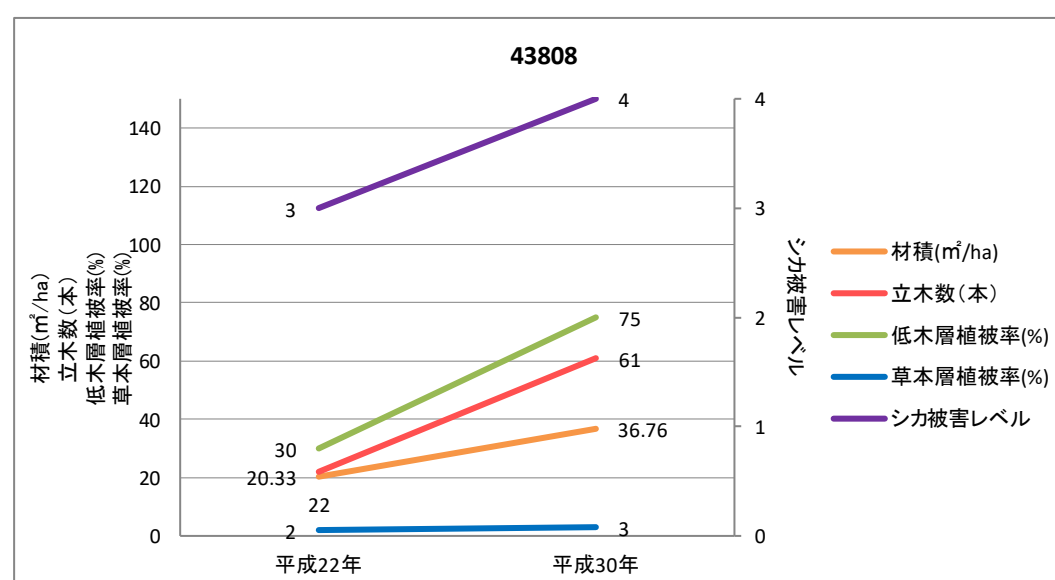
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はシカの忌避植物であるハイノキやアセビが繁茂し、林内の見通しは悪い。林冠ギャップ下の林床には、草本類の生育は確認されず、植被率が極めて低く貧弱である。



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はハイノキ、ツクシコバノミ、ツバツツジ、ヒメシャラが繁茂し、林内の見通しは悪い。草本層はシカの忌避植物であるミヤマシキミが生育するが、植被率が極めて低い。



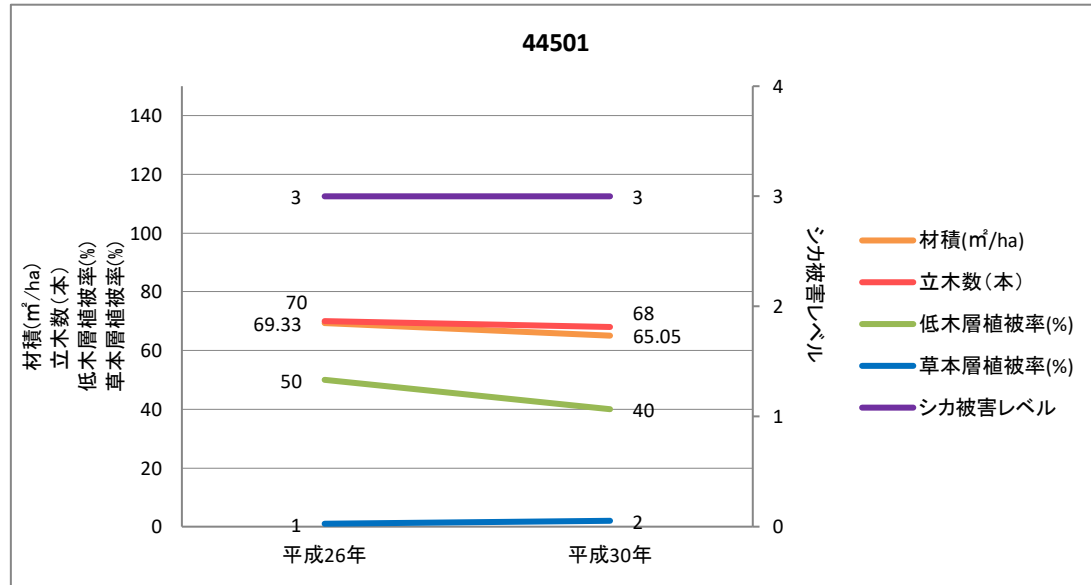
高木層はアカガシやカナクギノキなどの枯損が確認された。低木層はシキミやヒサカキが目立つが、林内の見通しはよい。プロット内は一部が湿地状になっており草本層は貧弱で、植被率が極めて低く、貧弱である。



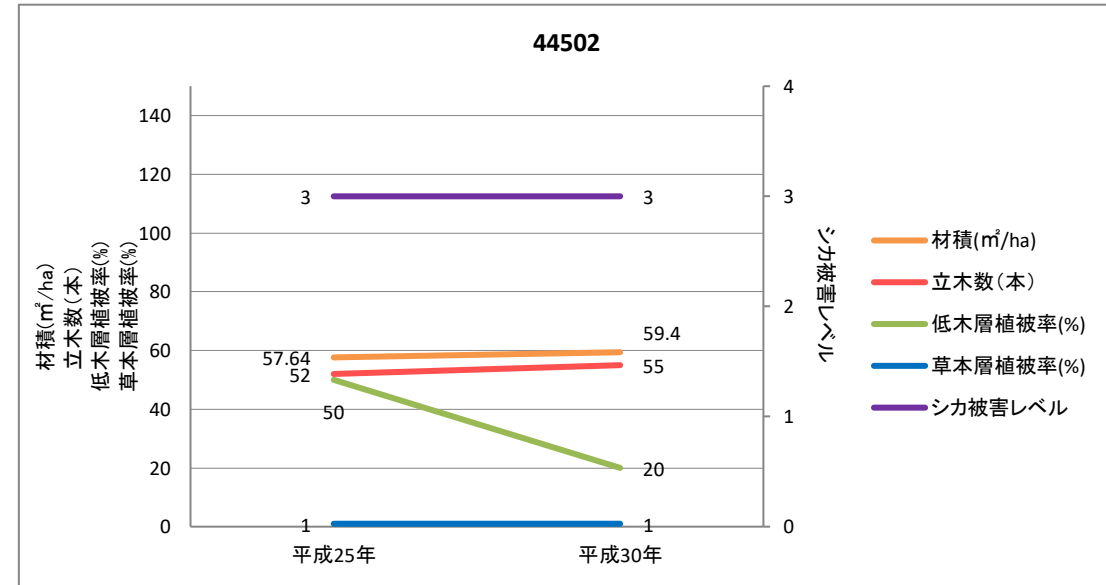
高木層はアカガシの枯損の他、ブナの大径木の倒木があり、ギャップが生じている。ギャップ部分にはヒメシャラの低木が多く、低木層はシカの忌避植物が優占し、林内の見通しは悪い。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

⑬国見山コウヤマキ等希少個体群保護林

プロットNo.	44501		44502	
	(2014年) 平成26年	(2018年) 平成30年	(2013年) 平成25年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	69.33	65.05	57.64	59.4
立木数(本)	70	68	52	55
低木層植被率(%)	50	40	50	20
草本層植被率(%)	1	2	1	1
シカ被害レベル	3	3	3	3
低木層種数	9	7	4	3
草本層種数	5	10	5	6
低木層優占種		ヒサカキ		ハイノキ
草本層優占種		ハイノキ		なし



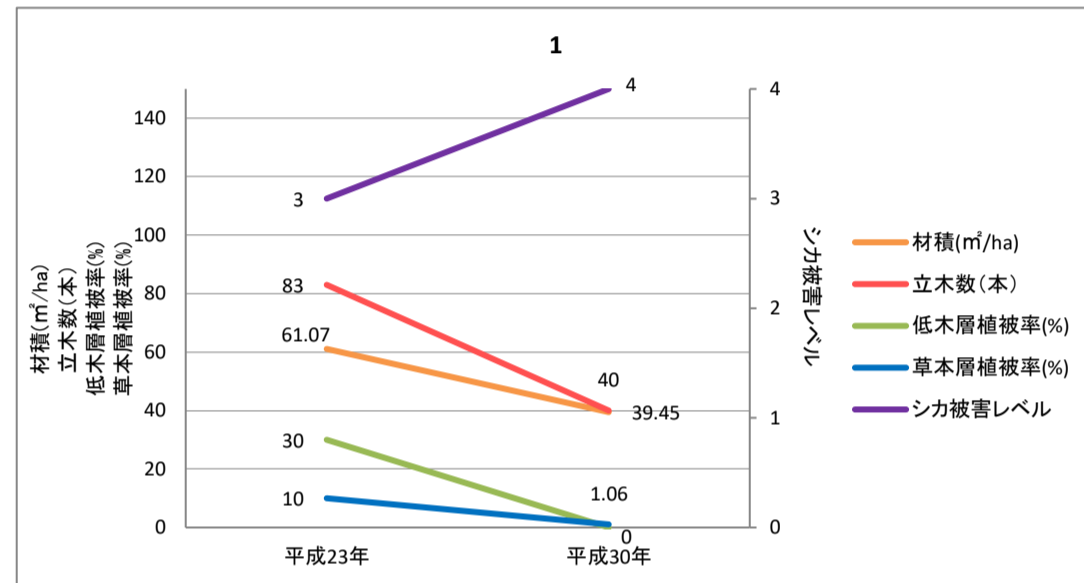
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はヒサカキが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。



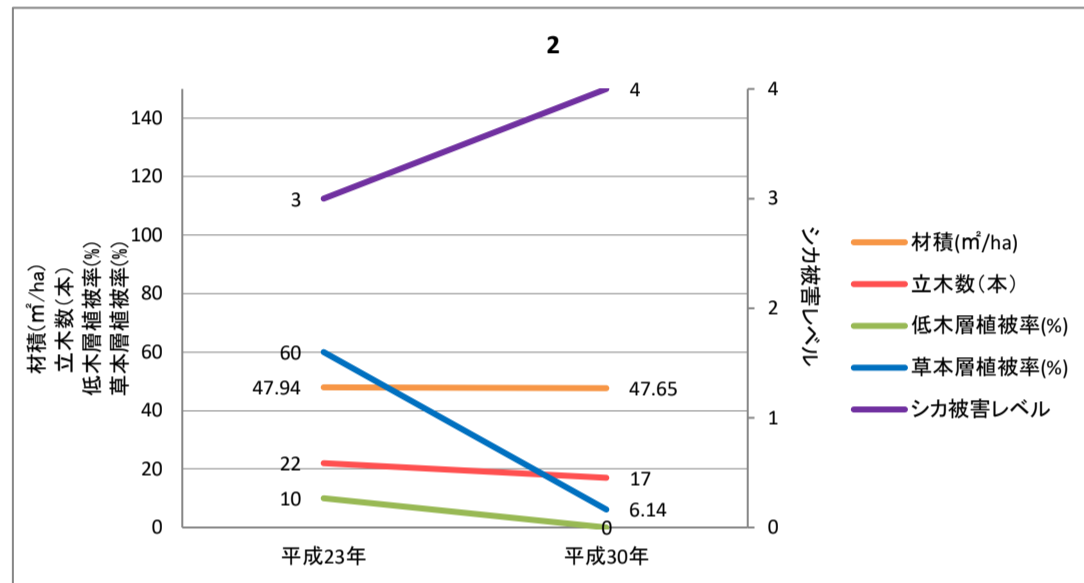
大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はハイノキが優占するが林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。

⑭重永カヤ等遺伝資源希少個体群保護林

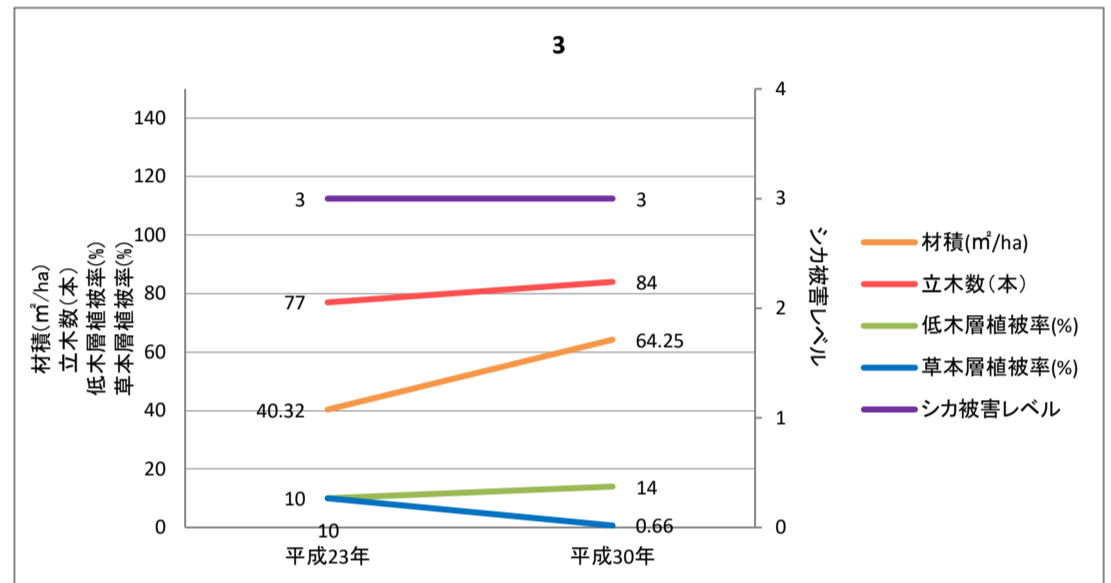
プロットNo.	1		2		3	
	(2011年) 平成23年	(2018年) 平成30年	(2011年) 平成23年	(2018年) 平成30年	(2011年) 平成23年	(2018年) 平成30年
材積(m ³ /ha)	61.07	39.45	47.94	47.65	40.32	64.25
立木数(本)	83	40	22	17	77	84
低木層植被率(%)	30	0	10	0	10	14
草本層植被率(%)	10	1.06	60	6.14	10	0.66
シカ被害レベル	3	4	3	4	3	3
低木層種数	3	0	0	0	3	2
草本層種数	11	4	10	5	8	6
低木層優占種		なし		なし		ヒサカキ
草本層優占種		シキミ		オオバノイノモトソウ		なし



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層は胸高直径5cm以下の小径木が多いが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。急傾斜且つ谷部に位置するため、表土流亡が起こっており、草本層の衰退が顕著である。



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層の立木はほとんどなく、林内の見通しは非常によい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。礫が多く、急傾斜且つ谷部に位置するため、表土流亡が起こっており、草本層の衰退が顕著である。



大径木の枯損や倒伏はなく、高木層は健全。低木層はヒサカキが優占するが、林内の見通しはよい。草本層は植被率が極めて低く、貧弱である。シカの糞が多い。暖傾斜のため表土流亡は起こっていない。